

玉名市文化財調査報告 第51集

玉名市内遺跡調査報告書 14

—— 令和2年度の調査 ——

令和4（2022）年3月

玉名市教育委員会

玉名市文化財調査報告 第51集

玉名市内遺跡調査報告書 14

—— 令和2年度の調査 ——

令和4（2022）年3月

玉名市教育委員会

玉名市文化財調査報告 第51集

玉名市内遺跡調査報告書 14

—— 令和2年度の調査 ——

令和4年（2022）3月

玉名市教育委員会

序 文

玉名市は、熊本県の北西部に位置しており、小岱山や菊池川、有明海といった自然の恩恵を受け、旧石器時代から今日に至るまで長い歴史を持ち、多くの文化財が所在しております。近年では国道 208 号バイパスや九州新幹線新玉名駅など新たな交通網の整備が進み、県北における政治経済産業・教育文化・観光の中心都市としてさらなる発展を続けています。

玉名市教育委員会では、さまざまな開発事業との調整を図り、発掘調査等の円滑な遂行のため、専門職員の増員を図るなど、体制の充実に努めてまいりました。また、公共及び民間の様々な事業に対応するため、市内に所在する文化財の状況把握も常に取り組み、埋蔵文化財行政の改善・充実に努力しています。

本書は、令和 2 年度に実施した各種開発に伴う確認調査と発掘調査の成果をまとめたものです。本書が市民の方々にとって埋蔵文化財に対する理解の一助となり、広く教育・文化の発展に寄与できれば幸いに存じます。

令和 4 年 3 月 18 日

玉名市教育委員会

教育長 福島 和義

例言

1. 本書は、玉名市教育委員会が令和2年度に国庫補助を受けて実施した、玉名市内遺跡の調査報告書である。
2. 調査は、玉名市教育委員会文化課中村安宏、齧父雅史が担当した。
3. 本書掲載のトレンチ及び遺構等の実測図は、各担当者が作成した。
4. 遺物実測は、藤井めい子、北嶋百合子が行い、一部、古閑敬士の助力を得た。
5. 調査時の写真撮影は、中村、齧父が行った。
6. 遺構実測図および遺物実測図のデジタルトレースは、宇田員将が行った。
7. 遺物写真撮影は、宇田が行った。
8. 挿図に使用した座標は、玉名市役所税務課所有の地籍図から転記した。座標値は世界測地系の第2座標系に基づいており、方位は特に記載がない限り座標北を示す。
9. 同じ遺跡内で別地点の調査を複数行っている場合には、アルファベットによる調査地点名を付した。
10. 調査地の地番については、原則として文化財保護法に基づく届出・通知の際に記載した地番を表示した。いくつかの調査地点については、分筆等により、新たな地番が付されている場合がある。
11. トレンチの表記は、本文中を除きTと省略した。
12. 本書で使用した遺構記号は、SDが溝、SKが土坑、SIが竪穴住居、SXがその他不明遺構、Pは小穴を表し令和2年度以前に調査された調査区内の遺構については、報告されている遺構名に準ずる。
13. 整理作業は、玉名市文化財整理室で行った。
14. 本書の執筆は、各調査担当者が調査後に作成した報文をもとに、宇田が行った。
15. 本書の編集は、宇田が行った。
16. 出土遺物は、玉名市文化財整理室で保管している。

本文目次

I 調査の概要

1 調査の体制	1
2 調査の方法	1
3 調査総括	1
4 活用	2

II 令和2年度の調査（試掘・確認調査）

1 高瀬藩邸跡	6
2 繁根木遺跡群	8
3 吉丸前遺跡	10
4 来顕寺	11
5 岩崎原遺跡	12
6 玉名平野遺跡群（A地点）	13
7 高岡原遺跡	14
8 玉名平野遺跡群（B地点）（両迫間日渡遺跡・柳町遺跡）	15
9 築地館跡	25
10 玉名平野遺跡群（C地点）	26

III 令和2年度の調査（発掘調査）

高岡原遺跡（東区・西区）	28
--------------	----

報告書抄録

奥付

挿図目次

第1図 令和2年度調査地位位置図	3	第16図 岩崎原遺跡調査地位位置図	12
第2図 高瀬藩邸跡調査地位位置図	6	第17図 岩崎原遺跡トレンチ配置図	12
第3図 高瀬藩邸跡トレンチ配置図	6	第18図 岩崎原遺跡土層断面柱状図	12
第4図 高瀬藩邸跡遺構配置図	7	第19図 玉名平野遺跡群（A地点）調査地位位置図	13
第5図 高瀬藩邸跡遺構土層図	7	第20図 玉名平野遺跡群（A地点）トレンチ配置図	13
第6図 高瀬藩邸跡出土遺物実測図	7	第21図 玉名平野遺跡群（A地点）土層断面柱状図	13
第7図 繁根木遺跡群調査地位位置図	8	第22図 高岡原遺跡調査地位位置図	14
第8図 繁根木遺跡群トレンチ配置図	8	第23図 高岡原遺跡確認調査範囲図	14
第9図 繁根木遺跡群2区遺構検出状況図	9	第24図 玉名平野遺跡群（B地点） （両迫間日渡遺跡・柳町遺跡）調査地位位置図	15
第10図 吉丸前遺跡調査地位位置図	10	第25図 玉名平野遺跡群（B-1地点）トレンチ位置図	16
第11図 吉丸前遺跡トレンチ配置図	10	第26図 玉名平野遺跡群（B-1地点）土層断面柱状図	17
第12図 吉丸前遺跡土層断面柱状図	10	第27図 玉名平野遺跡群（B-2地点）トレンチ位置図	18
第13図 来顕寺調査地位位置図	11	第28図 玉名平野遺跡群（B-2地点）土層断面柱状図	19
第14図 来顕寺トレンチ配置図	11	第29図 玉名平野遺跡群（B-3地点）トレンチ位置図	20
第15図 来顕寺土層断面柱状図	11		

第30図	玉名平野遺跡群(B-3地点)土層断面柱状図	21	第41図	高岡原遺跡東・西区遺構配置図	32
第31図	玉名平野遺跡群(B地点)出土遺物実測図	22	第42図	高岡原遺跡調査区壁面土層図	32
第32図	築地館跡調査地位位置図	25	第43図	高岡原遺跡東区SI01～03平面図・断面図 (断面図はSI02のみ)	34
第33図	築地館跡トレンチ配置図	25	第44図	高岡原遺跡東区出土遺物実測図	35
第34図	築地館跡土層断面柱状図	25	第45図	高岡原遺跡西区SI04平面・断面図	36
第35図	玉名平野遺跡群(C地点)調査地位位置図	26	第46図	高岡原遺跡西区SI05平面・土層・断面図	36
第36図	玉名平野遺跡群(C地点)トレンチ配置図	26	第47図	高岡原遺跡西区出土遺物実測図	36
第37図	玉名平野遺跡群(C地点)土層断面柱状図	26	第48図	高岡原遺跡遺構配置図(過去調査分との合成)	38
第38図	遺跡周辺地形分類図	28	第49図	高岡原遺跡弥生時代後期竪穴住居検出分布図	39
第39図	高岡原遺跡周辺遺跡分布図	29	第50図	高岡原遺跡古代遺構検出状況図	40
第40図	高岡原遺跡調査範囲一覧	30			

写真目次

写真1	トレンチ掘削状況	2	写真22	玉名平野遺跡群(B地点)出土遺物(3～9)	24
写真2	発掘調査状況	2	写真23	玉名平野遺跡群(B地点)出土遺物(10～12)	24
写真3	整理作業状況	2	写真24	2トレンチ掘削状況(南東から)	25
写真4	発掘調査成果報告会開催状況	2	写真25	玉名平野遺跡群(C地点) トレンチ掘削状況(東から)	26
写真5	高瀬藩邸跡1トレンチ調査状況(北から)	6	写真26	東区完掘状況(南から)	41
写真6	高瀬藩邸跡4トレンチ攪乱出土陶器甕	7	写真27	SI01～03完掘状況(東から)	41
写真7	繁根木遺跡群1区9トレンチ掘削状況(南東から)	9	写真28	SI02遺物出土状況(南西から)	41
写真8	繁根木遺跡群2区2トレンチ掘削状況(西から)	9	写真29	SD01完掘状況(北東から)	41
写真9	吉丸前遺跡3トレンチ掘削状況(南から)	10	写真30	高岡原遺跡西区完掘状況(北から)	42
写真10	来頭寺1トレンチ掘削状況(東から)	11	写真31	高岡原遺跡西区完掘状況(南から)	42
写真11	岩崎原遺跡1・2トレンチ掘削状況(北から)	12	写真32	SI04完掘状況(北西から)	42
写真12	玉名平野遺跡群(A地点) 1T掘削状況(南西から)	13	写真33	SI04完掘状況(南から)	42
写真13	高岡原遺跡調査風景(北から)	14	写真34	SI04西側突出部完掘状況(東から)	42
写真14	玉名平野遺跡群(B-1地点)1677東T調査状況	23	写真35	SI04焼土検出状況(東から)	42
写真15	玉名平野遺跡群(B-2地点)1458T調査状況	23	写真36	SI05完掘状況(北東から)	42
写真16	玉名平野遺跡群(B-2地点)1461西T調査状況	23	写真37	SK01完掘状況(北から)	42
写真17	玉名平野遺跡群(B-2地点)1465-1T調査状況	23	写真38	SK02完掘状況(南西から)	43
写真18	玉名平野遺跡群(B-2地点)1529T調査状況	23	写真39	SX01完掘状況(北東から)	43
写真19	玉名平野遺跡群(B-3地点)385T調査状況	23	写真40	東区出土遺物(13～18)	43
写真20	玉名平野遺跡群(B-3地点) 1557-1番地北T調査状況	23	写真41	東区出土遺物(19～26)	44
写真21	玉名平野遺跡群(B-3地点) 1560-1東T調査状況	23	写真42	東区(27～29)・西区(30～34)出土遺物	45

表目次

第1表	令和2年度試掘・確認調査一覧	4	第3表	令和2年度出土遺物1	45
第2表	令和2年度発掘調査一覧	4	第4表	令和2年度出土遺物2	46

I 調査の概要

1 調査の体制

調査及び報告書の作成は、下記の体制により実施した。

令和2年度（確認調査・整理作業）

調査主体 玉名市教育委員会

調査責任 教育長 池田誠一（令和2年12月3日まで）

教育長 福島和義（令和2年12月4日から）

調査総括 教育部長 西村則義

文化課長 伊藤恵浩

課長補佐兼文化財係長 田中康雄

庶務担当 主査 齋父雅史

調査担当 主査 中村安宏

主査 齋父雅史

発掘作業員 小塩勝美、陶山哲士、

中嶋明子、野口龍宏

整理作業員 北嶋百合子、藤井めい子

令和3年度（報告書作成）

調査主体 玉名市教育委員会

調査責任 教育長 福島和義

調査総括 教育部長 藤森竜也

文化課長 伊藤恵浩

課長補佐兼文化財係長 田中康雄

庶務担当 主査 宇田員将

報告書担当 主査 宇田員将

2 調査の方法

試掘確認調査は、工事などにより埋蔵文化財に影響が及ぼされる地点において検出が予想される遺跡の性格や地形等を勘案し、その事業内容に応じてトレンチを適宜設定している。設定したトレンチは、0.13～0.28㎡のバックホーにより掘削し、包含層の一部や検出した遺構については、人力にて掘削を行っている。実測図は、縮尺1/20を基本とし、平面・断面図を作成した。トレンチ配置図等は、開発に伴う測量図及び字図等に記入した。写真は、一眼デジタルカメラで撮影し、データを保管してある。

3 調査総括

玉名市では、平成11年度から国・県の補助を受け、開発行為に伴い各種調査を実施している。

令和2年度における届出等の件数は、文化財保護法第93条による届出70件、94条による通知23件、調査依頼が3件であり、その内10件（調査依頼分の3件含む）で確認調査を実施し、うち3件（高岡原遺跡東区・西区、繁根木遺跡群）が発掘調査となった。確認調査件数の多くは、規模の大小に問わず民間事業に起因するもので、公共事業に伴う確認調査は、新玉名駅周辺開発や市道拡幅、急傾斜地対策に伴うものであった。

前年度に引き続き実施された新玉名駅周辺開発に伴う確認調査は、約154887.0㎡の対象地に対して、合計134本のトレンチを設定し、4地点（玉名市玉名1677東トレンチ、同1669西トレンチ、同1557-1北トレンチ、同385トレンチ）において埋蔵文化財が確認された。中でも同385トレンチで検出された井戸は、古墳時代の集落跡等が発見された柳町遺跡範囲にも含まれており、当該遺跡との関連性を考えるうえで重要である。これらの埋蔵文化財が発見された地点は、開発により埋蔵文化財に影響を及ぼす場合は、事前に発掘調査を実施する必要がある。

急傾斜対策に伴い確認調査が行われた繁根木遺跡群では、玉名市文化センター（以下、文化センターとする）駐車場内と玉名市立玉名第一保育所（以下、第一保育所とする）旧敷地内にトレンチを設定した。文化センター駐車場は、1980年に寿福寺跡として発掘調査を実施した調査区の南側、稲荷山古墳の西側に当たるため、中世期の地下式坑や古墳周溝の検出が想定された。また戦時中には、軍の施設があったとの話もあり、戦跡関連遺構の検出が考えられた。調査の結果、現代の攪乱が多く、文化センター駐車場内で明確な遺構は認められなかった。一方、第一保育所旧敷地内では、大正期の明治記念高瀬公会堂と玉名図書館への進入路拡幅工事の際に繁根木箱式石棺墓1基が掘り出されていることから、それに関連する遺構が検出される可能性があった。確認調

I 調査の概要

査において予測された埋蔵文化財は認められなかったが、古墳時代の溝や時期不明の遺構が検出されたため、令和2年2月から同年5月まで発掘調査を実施した。

民間開発に伴う確認調査件数の内訳は、専用住宅建築に伴うものが4件、店舗建設に伴うものが2件、納骨堂建築に伴うものが1件である。

専用住宅建設に伴い実施された確認調査のうち、高瀬藩邸跡と高岡原遺跡で遺構が確認された。そのうち高岡原遺跡では、分譲地進入路の東側と西側で発掘調査を実施し、平成29年度に実施した分譲地進入路部分の調査区で見えられた弥生時代後期の竪穴住居や古代の溝に連続する遺構が確認された。これにより高岡原遺跡における弥生の集落範囲がさらに北西側に広がることが判明した。また古代の溝は、平成17年度や平成29年度分譲地進入路部分の確認調査で検出された溝と一連のものであることが明らかとなった。

4 活用

玉名市では、開発行為に伴う試掘確認調査の結果を年度ごとに報告書として刊行し、その試掘確認調査の成果をもって玉名市立歴史博物館こころピアにおいて2年毎に、発掘速報展を開催している。令和2年度は、試掘確認調査成果および令和2年度及び令和3年度に報告書が刊行された大原遺跡、玉名平野遺跡群の発掘調査成果も併せ「第9回たまな発掘速報展」と称して発掘速報展を開催した。また速報展開催期間中には、「発掘調査成果報告会」も実施した。

平時は、「埋蔵文化財を守るために」・「埋蔵文化財 Q & A」といった内容のプリントや各遺跡の発掘成果をまとめた概要版のリーフレットを独自に作成し、博物館や文化課の窓口で配布するなど啓発も積極的に行っている。

今後も、発掘調査時の現地説明会やその成果に関する報告会等を積極的に実施することで、埋蔵文化財の保護や啓発を図りたいと考えている。



写真1 トレンチ掘削状況



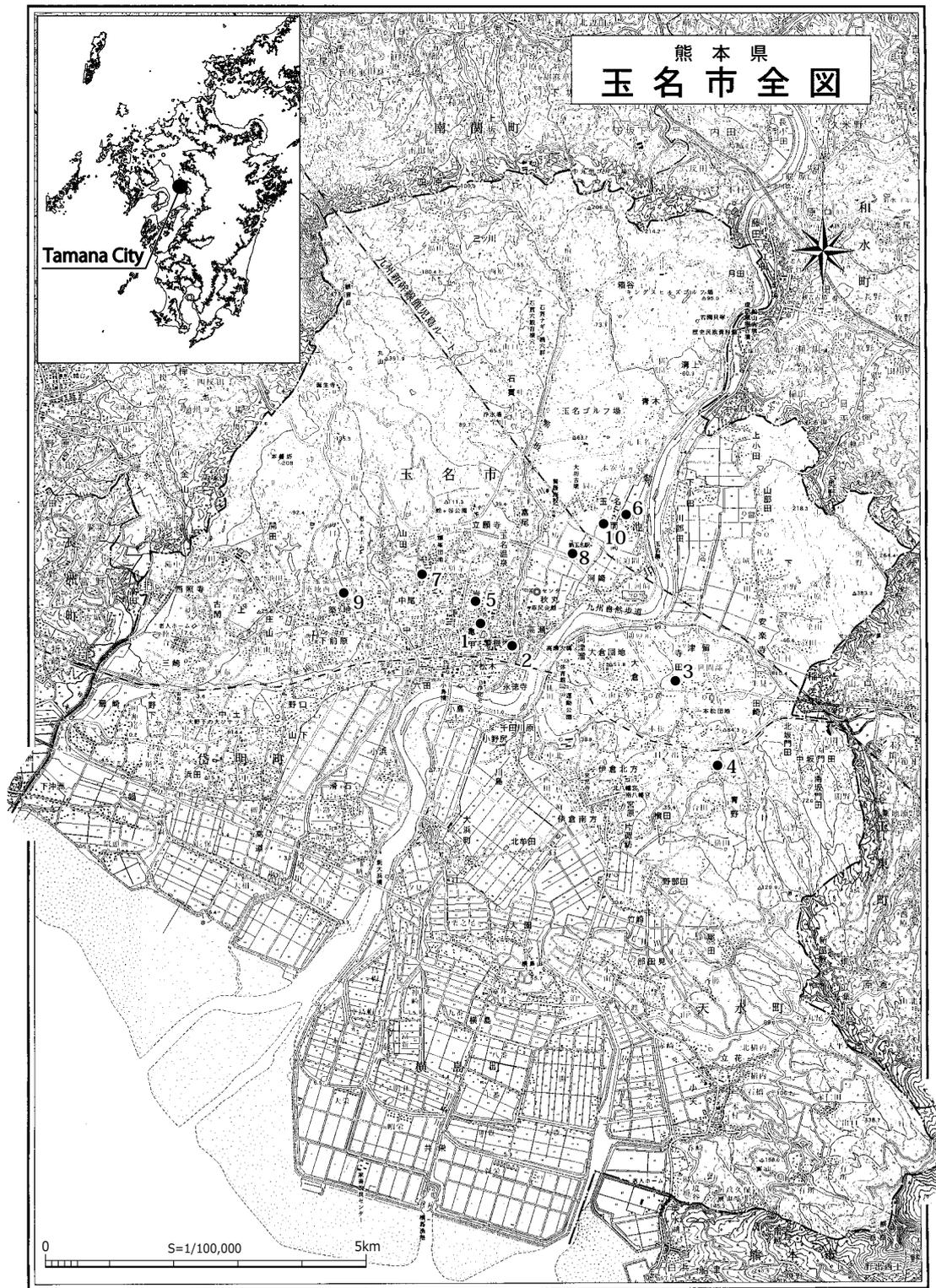
写真2 発掘調査状況



写真3 整理作業状況



写真4 発掘調査成果報告会開催状況



- | | | |
|----------|-----------------|------------------|
| 1 高岡藩邸跡 | 5 岩崎原遺跡 | 9 築地館跡 |
| 2 繁根木遺跡群 | 6 玉名平野遺跡群 (A地点) | 10 玉名平野遺跡群 (C地点) |
| 3 吉丸前遺跡 | 7 高岡原遺跡 | |
| 4 来頭寺 | 8 玉名平野遺跡群 (B地点) | |

第1図 令和2年度調査地位位置図

I 調査の概要

第1表 令和2年度試掘・確認調査一覧

	遺跡名	調査地	敷地面積 (㎡)	種別	調査原因	調査期日	調査者	措置
1	高瀬藩邸跡	岩崎字南岩原 1158-3,1158-4	426.37	確認調査	専用住宅	令和2年4月20日	蜷父雅史	工事立会
2	繁根木遺跡群 第1次	繁根木 143-3, 143-4,143-5	5,399.23	調査依頼	急傾斜地 対策	令和2年5月13日 ～5月27日	蜷父雅史	慎重工事
	繁根木遺跡群 第2次	繁根木 147-1(園庭部)				令和2年7月29日	蜷父雅史 菊池直樹	発掘調査
	繁根木遺跡群 第3次	繁根木 147-1(園舎跡地)				令和3年12月1日 ～12月3日	石松 直	慎重工事
3	吉丸前遺跡	寺田字山口 1484-1	663.0	確認調査	道路	令和2年6月9日	蜷父雅史	工事立会
4	来顕寺	青野 133-1の一部 外2筆	2740.77	確認調査	納骨堂	令和2年6月9日	蜷父雅史	慎重工事
5	岩崎原遺跡	立願寺 16-5	235.6	確認調査	専用住宅	令和2年6月15日	蜷父雅史	慎重工事
6	玉名平野遺跡群 (A地点)	玉名字小楠木 429-1・430-1	2731.07	確認調査	薬局	令和2年7月2日	蜷父雅史	慎重工事
7	高岡原遺跡	山田字高岡原 1996-12	266.22	確認調査	専用住宅	令和2年9月8日	蜷父雅史	発掘調査
8	玉名平野遺跡群 (B地点) 第1次	玉名 1453 外 23 筆	154,887.0	調査依頼	駅周辺整備	令和2年11月11日 ～11月18日	蜷父雅史	—
	玉名平野遺跡群 (B地点) 第2次	玉名 1553-1 外 12 筆				令和2年12月1日 ～12月9日	蜷父雅史	
	玉名平野遺跡群 (B地点)・ 柳町遺跡 第3次	玉名 377-1 外 28 筆				令和3年1月21日 ～1月29日	蜷父雅史	
	玉名平野遺跡群 (B地点)・ 両迫間日渡遺跡 第4次	玉名 1640-1 外 15 筆				令和3年2月5日 ～2月15日	蜷父雅史	
	玉名平野遺跡群 (B地点)・ 両迫間日渡遺跡 第5次	玉名 1608-1 外 14 筆				令和3年2月17日 ～2月25日	蜷父雅史	
9	築地館跡	築地陣内 2401	138.42	調査依頼	専用住宅	令和2年11月24日	蜷父雅史	慎重工事
10	玉名平野遺跡群 (C地点)	玉名字下深田 1241-1,1242-1,1243-1	1,935.0	確認調査	薬局	令和2年11月30日	中村安宏	慎重工事

第2表 令和2年度発掘調査一覧

	遺跡名	調査地	敷地面積 (㎡)	種別	調査原因	調査期日	調査者	措置
1	高岡原遺跡 (東区)	山田字高岡原 1996-12	69.85	発掘調査	専用住宅 (駐車場)	令和2年9月10日 ～10月9日	中村安宏 蜷父雅史	—
	高岡原遺跡 (西区)	山田字高岡原 1996-7	78.00	発掘調査	専用住宅 (駐車場)	令和2年10月21日 ～10月30日	中村安宏 蜷父雅史	—

Ⅱ 令和2年度の調査 (試掘・確認調査)

1 高瀬藩邸跡

所在地：玉名市岩崎字南岩原 1158-3,1158-4

調査原因：専用住宅

対象面積：426.37㎡

調査日：令和2年4月20日

調査者：蜷父雅史

調査地は、繁根木川右岸の低丘陵上に位置する、標高約11mの地点である。一帯は、江戸時代末期から明治時代初頭にかけて高瀬藩用地として造成されている。敷地内は、調査依頼に基づいて平成27年度に確認調査を実施し、高瀬藩家臣の屋敷に伴う井戸跡などを検出した。前回の調査結果を踏まえ、遺構検出面が地表下約30cmと浅いことから、今回の住宅工事の設計に基づき、改めてトレンチを設定して確認調査を実施した。

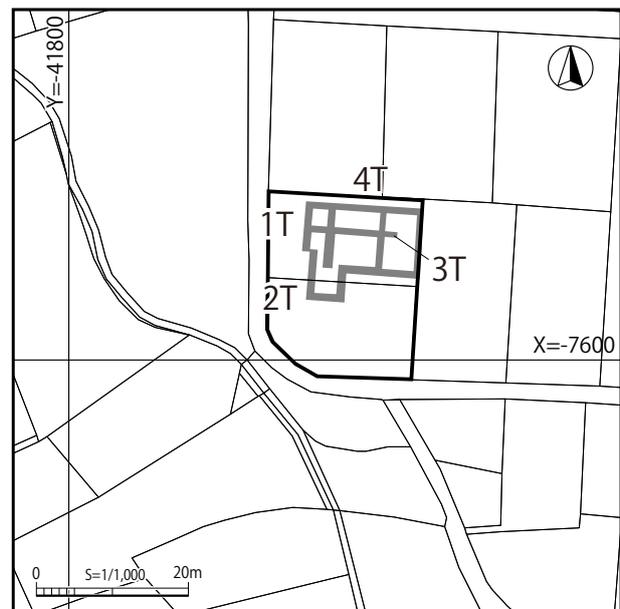
前回と同様に表土及び藩邸造営時による整地層直下の土層は、無遺物層であったが東側の大半は、以前の建物を解体する際に攪乱を受けた状況であり、コンクリート基礎部の残骸も含まれていた。西側では、遺構プランを数基確認できたが、遺構検出作業のみではその時期や性格を判断することに限界があり、検出した遺構が攪乱の可能性も考えられたことから、継続して調査を実施した。

遺構は、近世末から近代と考えられる廃棄土坑(SK01)のほか、時期不明の小溝(SD02)、ピット2基(P1・P2)を検出したが、その他は現代の攪乱であった。廃棄土坑からは、少量であるが陶磁器、瓦、貝殻片などが出土した。廃棄土坑(SK01)の約3m北西側には井戸も残存し、高瀬藩家臣の屋敷に伴っていた可能性も考えられる。また攪乱から出土したニッケータン(第6図1)は、「国策炭」・「助燃機」などと呼ばれ、第二次世界大戦中に少量の炭でも火力を長持ちさせるために使用された代用陶器の一種で、戦時中の生活風景が垣間見える資料である。

調査区東側では、前述のとおり攪乱が多くみられ、その面積も狭小であるため、基礎の掘削時に工事立会を行っているが、新たに遺構・遺物は、発見されなかった。



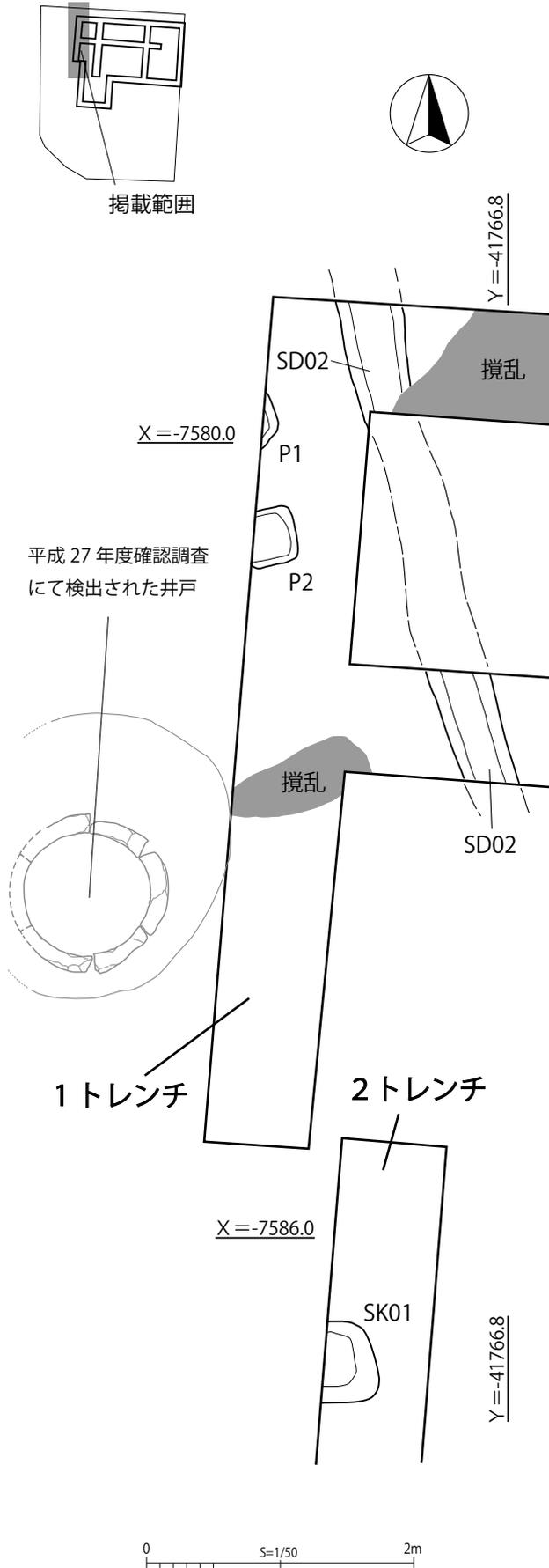
第2図 高瀬藩邸跡調査地位置図



第3図 高瀬藩邸跡トレンチ配置図



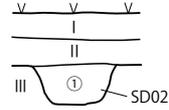
写真5 高瀬藩邸跡1トレンチ調査状況(北から)



第 4 図 高瀬藩邸跡遺構配置図

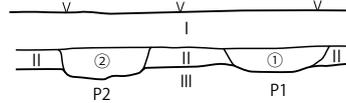
基本層序

- I 碎石層
- II 整地層
- III 明黄褐色土 (2.5YR 7/6)
しまり強く、粘性あり。無遺物層。



SD02土層断面

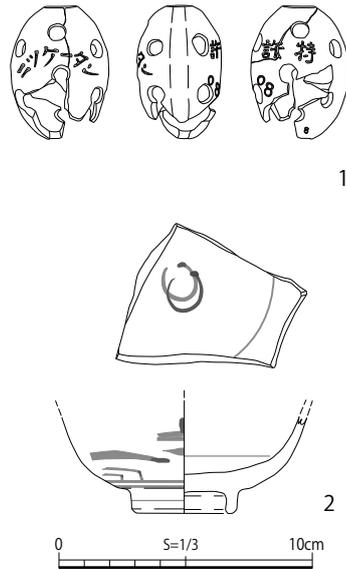
- ① 褐色粘性土 (7.5YR 4/3)
しまり、粘性弱い。砂粒を多く含む。
近世の小溝 (畑に伴うものか)



P1・P2土層断面

- ① 暗褐色 (7.5YR 3/4)土 炭化物、焼土含む。
- ② 暗褐色 (7.5YR 3/3)土 炭化物、鉄釘を含む。

第 5 図 高瀬藩邸跡遺構土層図



第 6 図 高瀬藩邸跡出土遺物実測図



写真 6 高瀬藩邸跡 4 トレンチ 攪乱出土陶器 甕

2 繁根木遺跡群

所在地:玉名市繁根木 143-3,143-4,143-5(第1次)

:玉名市繁根木 147-1 園庭部 (第2次)

:玉名市繁根木 147-1 園舎跡地 (第3次)

調査原因:急傾斜地対策

対象面積:5,399.23㎡

調査日:令和2年5月13日～5月27日(第1次)

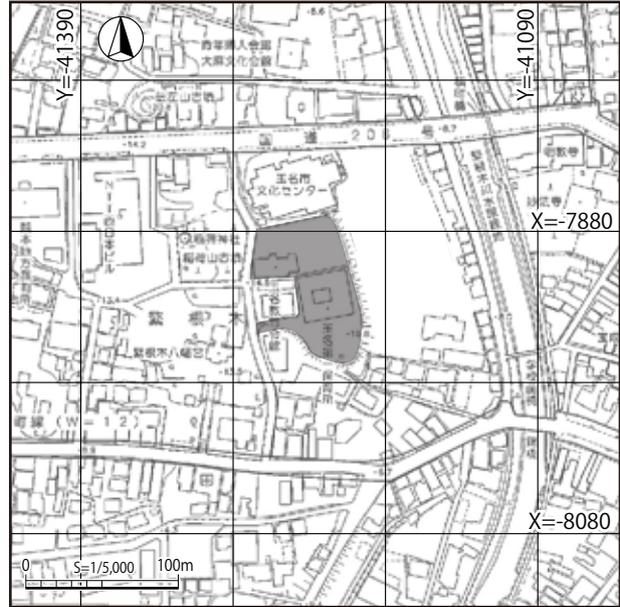
:令和2年7月19日(第2次)

:令和2年12月1日～12月3日(第3次)

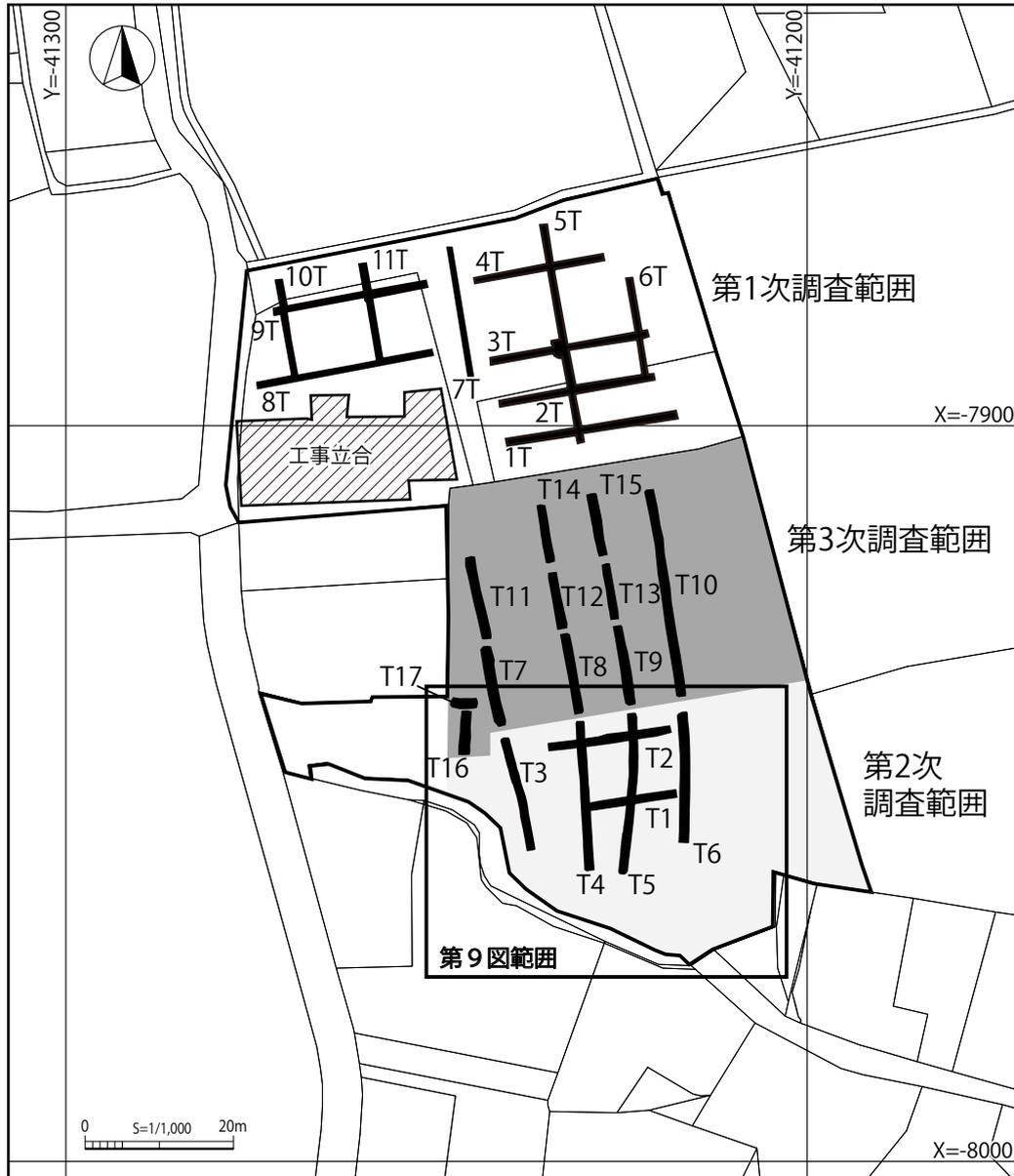
調査者:齋父雅史(第1次)

齋父雅史、菊池直樹、石松 直

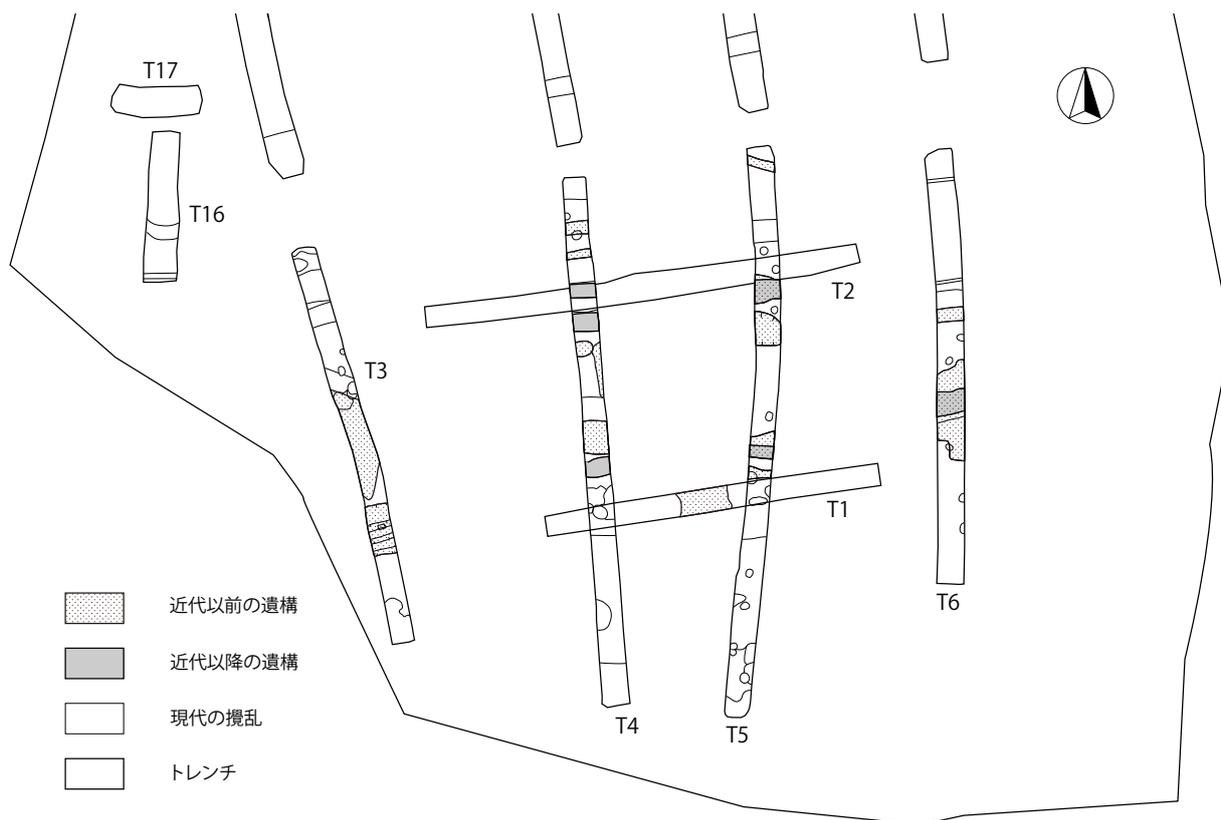
(第2次・第3次)



第7図 繁根木遺跡群調査地位置図



第8図 繁根木遺跡群トレンチ配置図



第9図 繁根木遺跡群2区遺構検出状況図

調査地は、繁根木川右岸低丘陵上、標高約12mの地点に位置する。調査地北側は、中世から近世にかけて所在した寿福寺推定地にあたり、調査地南側の第一保育園旧敷地は、近世の玉名郡代話所が所在していた。調査地西隣には稲荷山古墳もあり、各々関連遺構の検出が想定された。確認調査は、文化センター駐車場部分（第1次）に11本、第一保育園旧敷地（第2次・第3次）に17本の合計28本のトレンチを設定し掘削した。その結果、文化センター駐車場は、現代の攪乱が著しく大幅に削平を受けていることから、埋蔵文化財が残存している可能性は低いと考えられる。一方で2区は、大正期に建てられた玉名郡立図書館跡と想定される遺構と古墳時代と考えられる溝状遺構と時期不明の遺構を数基検出された。調査地は、急傾斜地崩壊危険区域の造成工事で、大幅な切土が発生するため、遺構が検出された第一保育所旧敷地では発掘調査が必要であると判断した。

発掘調査は、令和3年2月から同年5月まで実施されており、繁根木遺跡群の確認調査および発掘調査の詳細は、後日刊行される調査報告書内で追って報告する予定である。



写真7 繁根木遺跡群1区9トレンチ掘削状況（南東から）



写真8 繁根木遺跡群2区2トレンチ掘削状況（西から）

3 吉丸前遺跡

所在地：玉名市寺田字山口 1484-1

調査原因：道路

対象面積：663㎡

調査日：令和2年6月9日

調査者：蜷父雅史

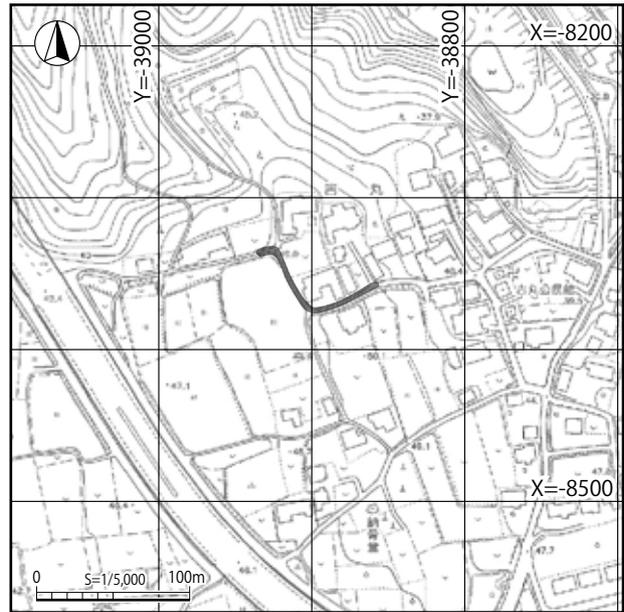
調査地は、菊池川左岸の台地上に位置する標高43～50mの地点であり、現況は市道及び畑地、宅地である。平成13年度から15年度にかけて西側に隣接する玉名バイパス建設に伴い実施された発掘調査では中世の館跡に伴う空堀状遺構等を検出している。

今回、市道拡幅工事の際に畑地などで切土が発生するため5か所のトレンチを設定し、確認調査を実施した。

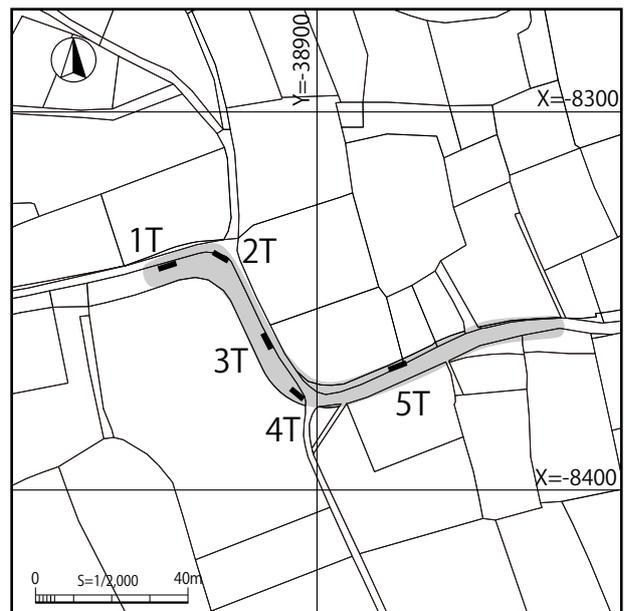
確認調査の結果、5トレンチを除くすべてのトレンチでI層からIII層の堆積を確認した。I層は、耕作土（Ia層は現代、Ib層は近世以降の旧耕作土）でII層は、暗褐色粘性土、III層は黄褐色粘性土で地山と考えられる。4トレンチでは、Ib層上で暗渠状の掘り込みが確認された。5トレンチは、I層が確認されず宅地造成による客土がみられ、その下層にはII層、III層の堆積が確認された。II層中には井戸跡が確認されたが瓦礫とコンクリートで埋められており近代以降のものと考えられる。調査区全体において近世以前の遺構が認められなかったため慎重工事となった。



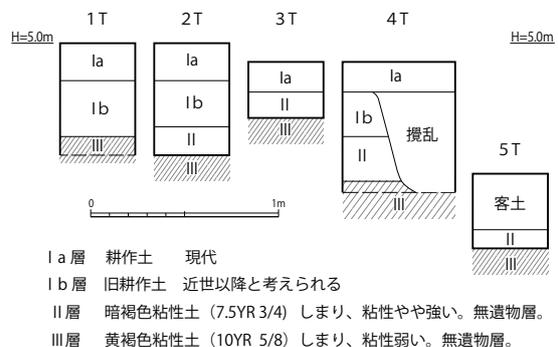
写真9 吉丸前遺跡3トレンチ掘削状況（南から）



第10図 吉丸前遺跡調査地位置図



第11図 吉丸前遺跡トレンチ配置図



第12図 吉丸前遺跡土層断面柱状図

4 来頭寺

所在地：玉名市青野 133-1 の一部外 2 筆

調査原因：納骨堂

対象面積：2,740.77㎡

調査日：令和 2 年 6 月 9 日

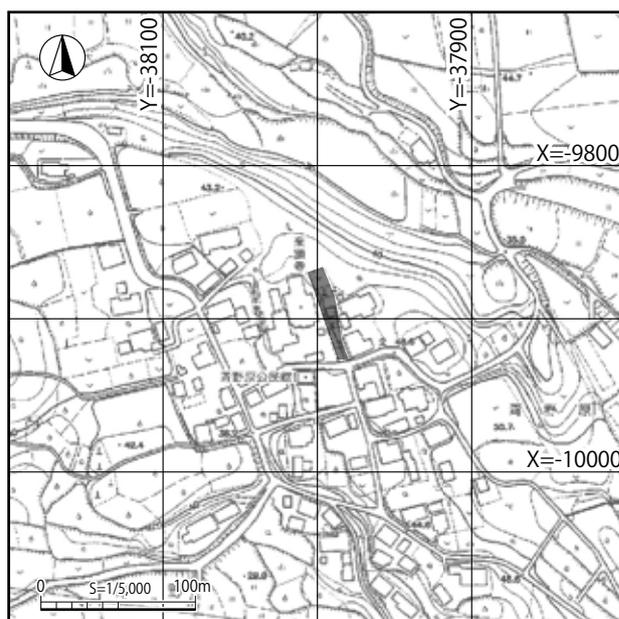
調査者：齋父雅史

調査地は、伊倉丘陵性台地上の標高 43～50m の地点に位置する。江戸時代後期には来頭寺が建立されているが、今回は、納骨堂建設予定地に 3 か所のトレンチを設定し確認調査を実施した。

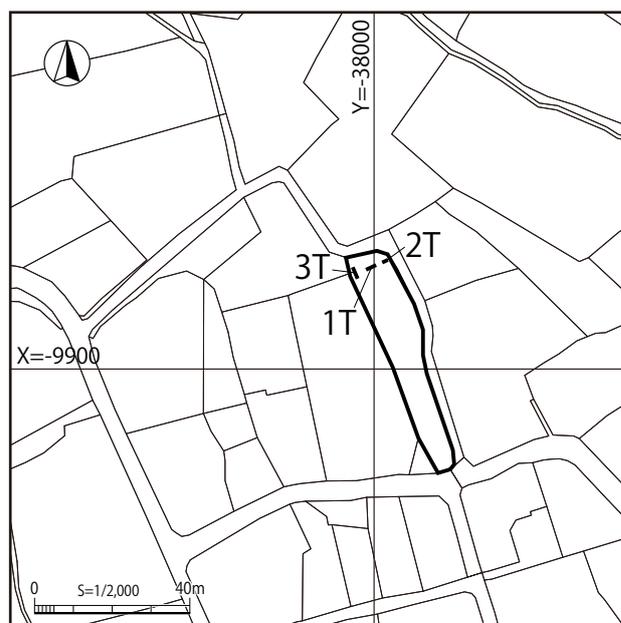
1 トレンチは、現地表面から約 15cm 下、2 トレンチは現地表面から約 40cm 下までは表土及び旧耕作土層であり、その直下は、基盤土（無遺物層）であった。特に 1 トレンチでは、竹根やごみ穴による攪乱がみられ、埋蔵文化財は認められなかった。

3 トレンチ付近は、1 トレンチ・2 トレンチ地点よりも約 1.5m 低くなっており、本堂と同じ高さである。3 トレンチは、表土直下が礫層であったことから、本堂が建てられた江戸期に削平を受けているものと考えられる。

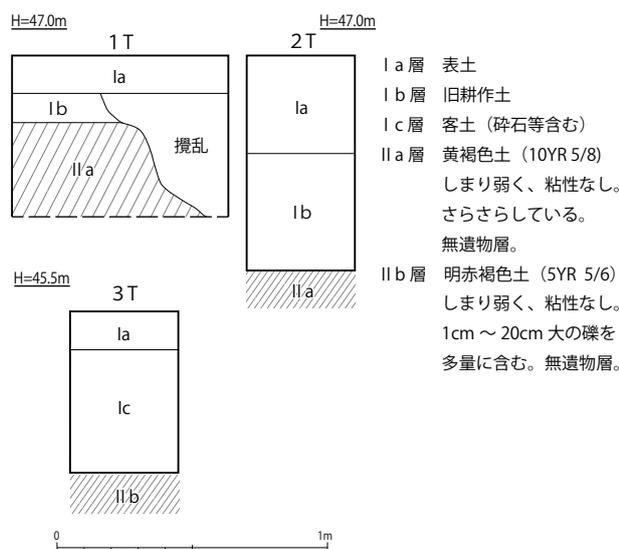
以上の状況から、納骨堂建設予定地内に埋蔵文化財は認められなかったため、慎重工事となった。



第 13 図 来頭寺調査地位置図



第 14 図 来頭寺トレンチ配置図



第 15 図 来頭寺土層断面柱状図



写真 10 来頭寺 1 トレンチ掘削状況（東から）

5 岩崎原遺跡

所在地：玉名市立願寺 16-5

調査原因：専用住宅

対象面積：235.6㎡

調査日：令和2年6月15日

調査者：齋父雅史

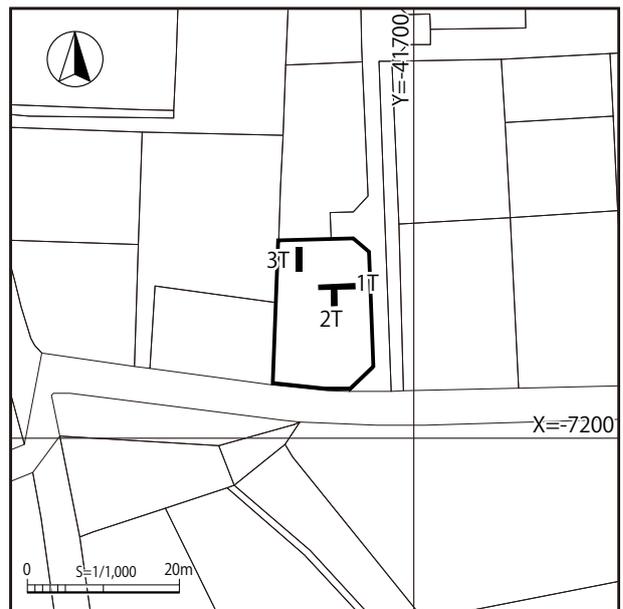
調査地は、繁根木川右岸の低丘陵上に位置する標高約 16m の地点で、現在は 4 区画の分譲地となっている。今回の確認調査は、専用住宅の建設予定地内に 3 か所のトレンチを設定し実施した。

各トレンチの基本土層は、I 層が整地層、II 層が旧耕作土層、III 層が暗褐色粘性土層、IV 層が黄褐色粘性土層（無遺物層）であり、いずれのトレンチにおいても埋蔵文化財は、認められなかった。

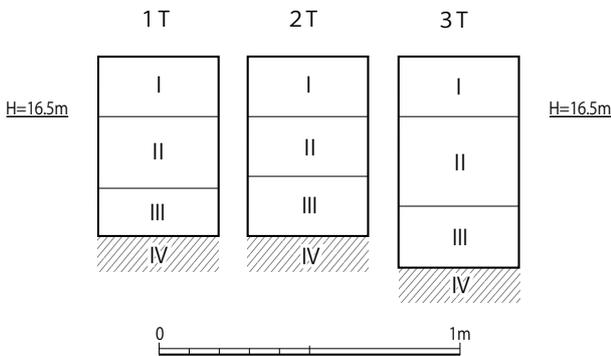
今回の工事は、基礎の掘削深度が平均約 37cm、北東側では約 1 m であるが、確認調査の状況から、慎重工事となった。



第 16 図 岩崎原遺跡調査地位置図



第 17 図 岩崎原遺跡トレンチ配置図



- I 層 整地層 山砂。一部碎石含む。
- II 層 旧耕作土
近世以降と考えられ、砂粒、暗褐色土と混ざる。
- III 層 暗褐色粘性土 (7.5YR 3/4)
しまり、粘性やや強い。無遺物層。
- IV 層 黄褐色粘性土 (10YR 5/8)
しまり、粘性弱い。根穴が顕著にみられる。無遺物層。

第 18 図 岩崎原遺跡土層断面柱状図



写真 11 岩崎原遺跡 1・2 トレンチ掘削状況（北から）

6 玉名平野遺跡群 (A 地点)

所在地：玉名市玉名字小楠木 429-1、430-1

調査原因：薬局

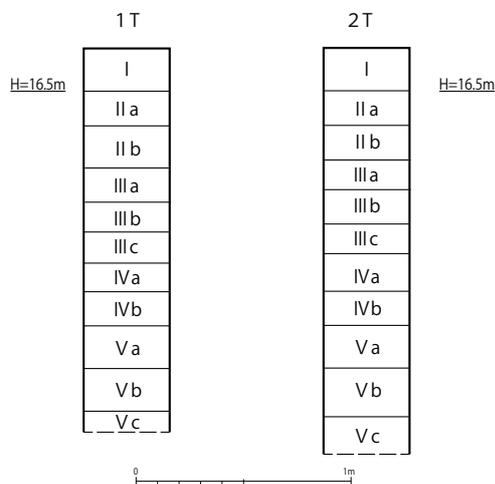
対象面積：2,731.07㎡

調査日：令和2年7月2日

調査者：蜷父雅史

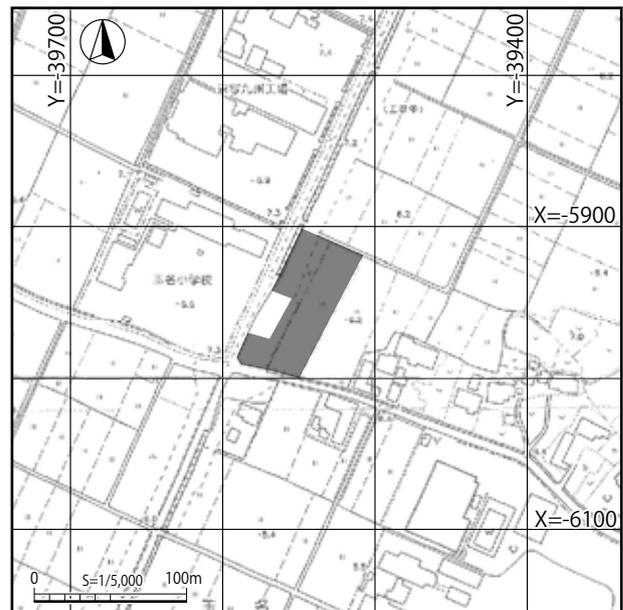
調査地は、菊池川右岸の平野部に位置する標高約6mの地点である。現況は、水田で周辺の市道よりも約1m低くなっている。今回は、薬局の新築に伴って盛土及び杭打ち工事が行われるため、工事予定地内に2か所のトレンチを設定し、確認調査を実施した。各トレンチでは、I層～V層の堆積がみられたが、埋蔵文化財は確認されなかった。

今回の工事は、市道の路面高に合わせるため敷地全体に約1mの盛土が計画されている。建物の基礎及び擁壁施工時は、盛土後の設計地盤高から約1.2m下まで掘削し、直径30cmの杭が15本打ち込まれるが、確認調査の状況から慎重工事となった。



- I層 耕作土 近代～現代
 II a層 黄褐色砂質土 (2.5Y 5/4) 近世以降の耕作土が。しまり弱く、粘性なし。全体的に粗い砂粒を多量に含む。
 II b層 黄褐色砂質土 (2.5Y 5/3) 近世の耕作土。しまり、粘性弱い。全体的に粗い砂粒を多量に含む。
 III a層 オリーブ褐色粘性土 (2.5Y 4/4) ややしまり、粘性あり。細かい砂粒少量、マンガン含む。
 III b層 オリーブ褐色粘性土 (2.5Y 4/6) III a層よりしまり強く、粘性あり。マンガンをやや多く含む。
 III c層 にぶい黄褐色粘性土 (10YR 5/4) しまり、粘性強い。マンガン少量含む。
 IV a層 灰オリーブ色粘性土 (5Y 4/2) しまり、粘性やや強い。部分的にマンガン含む。
 IV b層 灰オリーブ色粘性土 (5Y 5/3) しまり、粘性弱い。
 Va層 黒色粘性土 (5Y 4/2) しまり弱い、粘性強い。全体で最も黒色が強い。
 Vb層 オリーブ黒色粘性土 (5Y 3/1) しまり弱い、粘性強い。
 Vc層 オリーブ黒色粘性土 (5Y 3/2) しまり弱い、粘性やや強い。水分含む。

第21図 玉名平野遺跡群 (A 地点) 土層断面柱状図



第19図 玉名平野遺跡群 (A 地点) 調査地位置図



第20図 玉名平野遺跡群 (A 地点) トレンチ配置図



写真12 玉名平野遺跡群 (A 地点) 1T 掘削状況 (南西から)

7 高岡原遺跡

所在地：玉名市山田字高岡原 1996-12

調査原因：専用住宅

対象面積：266.22㎡

調査日：令和2年9月8日

調査者：蜷父雅史

調査地は、小岱山から南に伸びる丘陵上、標高26m程の地点で、現在は、分譲地となっている。隣接する分譲地の進入路部分については、平成29年度に発掘調査を実施し、弥生時代後期の竪穴住居跡7基、古墳時代の竪穴住居跡1基、古代と考えられる溝跡1条などを検出している。

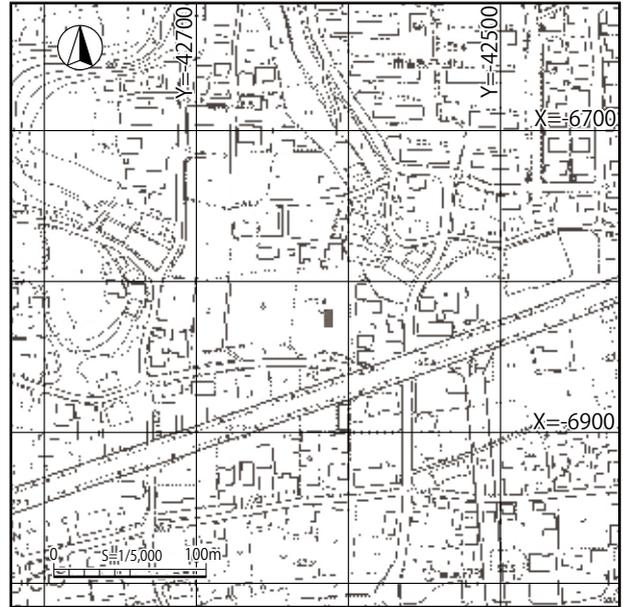
今回、専用住宅に付帯する駐車場工事に伴い約70㎡の範囲で切土が発生するため、駐車場工事の範囲において確認調査を実施した。

確認調査の結果、隣接する平成29年度の発掘調査地と同様、現地表面から約55cmの深度で遺構が検出された。主な遺構は、弥生時代後期と考えられる竪穴住居跡2基と平成29年度発掘調査で検出された古代溝の続きと想定される溝状遺構が1条である。

今回の専用住宅新築工事に伴う建物基礎部分の掘削は、最深部で約36cmであり、すべて耕作土中に収まるが、駐車場部分は、進入路と同じ高さまで切土されるため、遺構検出面に影響を及ぼす。そのため駐車場部分の範囲については発掘調査を実施することとなった。

同様に分譲地進入路を挟んだ西側の専用住宅建設用地の内、駐車場部分（78.0㎡）も進入路に合わせて切土が発生するため、今回の確認調査結果から西側も発掘調査を実施することになった。

2か所の駐車場建設予定地の発掘調査は、令和2年度に実施したが、その発掘調査の成果等は、本書「Ⅲ令和2年度の調査（発掘調査）」で詳細な報告を行っている。併せて参照いただきたい。



第22図 高岡原遺跡調査地位置図



第23図 高岡原遺跡確認調査範囲図



写真13 高岡原遺跡調査風景（北から）

8 玉名平野遺跡群 (B地点)
(両迫間日渡遺跡・柳町遺跡)

調査原因：新玉名駅周辺整備事業に伴う開発

対象面積：154,887㎡

調査日：令和2年11月11日～11月18日(第1次)

令和2年12月1日～12月9日(第2次)

令和3年 1月21日～1月29日(第3次)

令和3年 2月 5日～2月15日(第4次)

令和3年 2月17日～2月25日(第5次)

所在地：玉名市玉名1453外23筆(第1次)

玉名市玉名1553-1外12筆(第2次)

玉名市玉名377-1外28筆(第3次)

玉名市玉名1640-1外15筆(第4次)

玉名市玉名1608-1外14筆(第5次)

調査者：蜷父雅史



第24図 玉名平野遺跡群 (B地点) (両迫間日渡遺跡・柳町遺跡) 調査地位置図



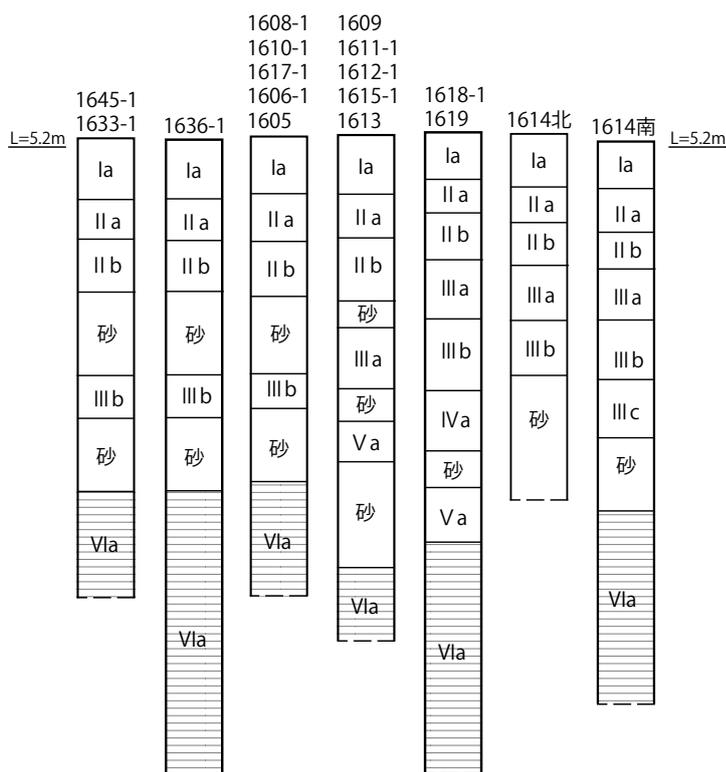
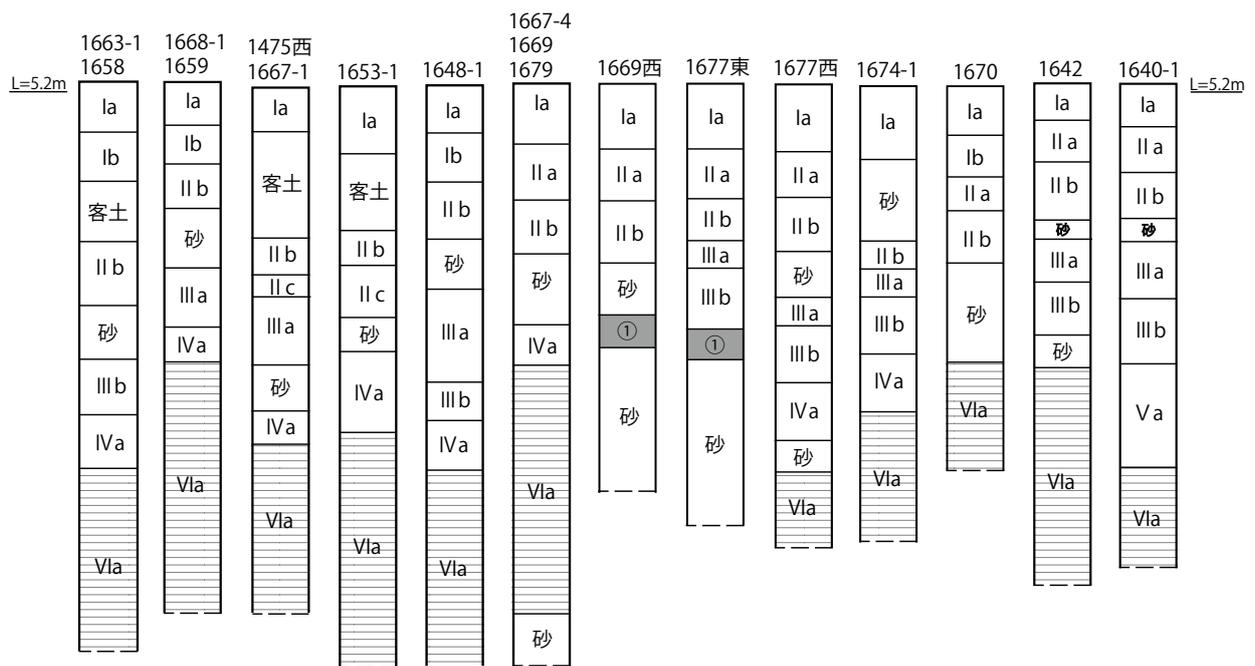
第 25 図 玉名平野遺跡群 (B-1 地点) トレンチ位置図

調査地は、菊池川右岸、標高約 5 m～6 m 付近の平野部に位置する。B-3 地点が一部含まれる柳町遺跡では、玉名バイパスの建設に伴い平成 6 年度から平成 12 年度にかけて発掘調査が実施され、古墳時代から古代を中心に集落跡などを検出し、青銅鏡・木製短甲などの重要な遺物も出土した。九州新幹線新玉名駅建設に伴い平成 19 年度から平成 20 年度に発掘調査を実施した両迫間日渡遺跡では、古墳時代中期の祭祀遺構を検出し、多くの滑石製品・ミニチュア土器が出土するなど、重要な埋蔵文化財が多く残っている遺跡である。本年度も調査依頼に基づき、B-1 地点で 54 か所、B-2 地点で 41 か所、B-3 地点で 39 か所の合計 134 か所で確認調査を実施した。すべてのトレンチにおいて概ね I 層から VI

層まで確認し、II 層と III 層並びに III 層と IV 層間には砂層が堆積していることが多い。

B-1 地点は、白間山地からのびる扇状地形の先に広がる地点を指す。1669 番地西トレンチと 1677 番地東トレンチで土師器が出土する遺物包含層を確認したが、1669 西トレンチは、砂層に挟まれた状態で遺物包含層が確認され、下の砂層は激しい湧水を確認したため遺物包含層は、流れ込みによる再堆積と考えられる。

B-2 地点は、新玉名駅南東側一帯の範囲である。一部のトレンチでは II 層と III 層の間に砂層の堆積が見られるが砂層自体の堆積は、B-1 地点と比較すると限定的である。III 層以下の堆積は、B-1 地点と比較して IV 層、V 層の堆積が厚く、それに伴い地山層



基本層序 (各トレンチ共通)

近現代

- la 現代耕作土。
- lb 旧耕作土(水田床土)。

近世

- II a 黄褐色砂質土 (2.5Y 5/4)
全体的に粗い砂粒を多く含む。近世以降の耕作土か。
- II b 黄褐色砂質土 (2.5Y 5/4)
しまりなし、全体的に粗い砂粒をやや多く含む。近世の耕作土。
- II c にぶい黄色砂質土 (2.5Y 6/4)
しまり弱い、やや粗い砂粒を含む。近世の耕作土。

古代~中世

- III a オリーブ褐色粘性土 (2.5Y 4/4)
ややしまる、粘性あり。細かい砂粒少量、マンガンを含む。
- III b オリーブ褐色粘性土 (2.5Y 4/6)
III a よりもややしまり強い、粘性あり、マンガンをやや多く含む。
- III c にぶい黄色砂質土 (10YR 5/4)
しまり、粘性強い。マンガンを少量含む。

弥生~古墳

- IV a 黒色粘性土 (10YR 5/4)
しまり弱いが、粘性強い。全体で最も黒色が強い粘質土。
- IV b 暗灰色粘性土 (5Y 6/4)
しまり弱い、粘性強い。全体で最も黒色が強い粘質土。

弥生以前

- V a 灰オリーブ色粘性土 (5Y 4/2)
しまり、粘性やや強い。部分的にマンガンを少量含む。
- V b 灰オリーブ色粘性土 (5Y 5/3)
しまり、粘性はVa層よりも弱い。

地山

- VI a オリーブ黒色粘性土 (5Y 3/1)
しまり弱いが、粘性やや強い。
- VI b 青灰色粘土層 (10GY 4/1)
しまり弱い、粘性やや強い。水分を多く含む。

遺物包含層 (遺構検出層)

- ① オリーブ黒色土層 (10Y 3/1)
しまりなく、やや粘性あり。土器片多く含む。
- ② 暗褐色土層 (10YR 3/4)
ややしまりあり。土器片含む。

■ 遺物包含層

▨ 地山

※柱状図の頭にある数字は地番を表す。



第 26 図 玉名平野遺跡群 (B-1 地点) 土層断面柱状図



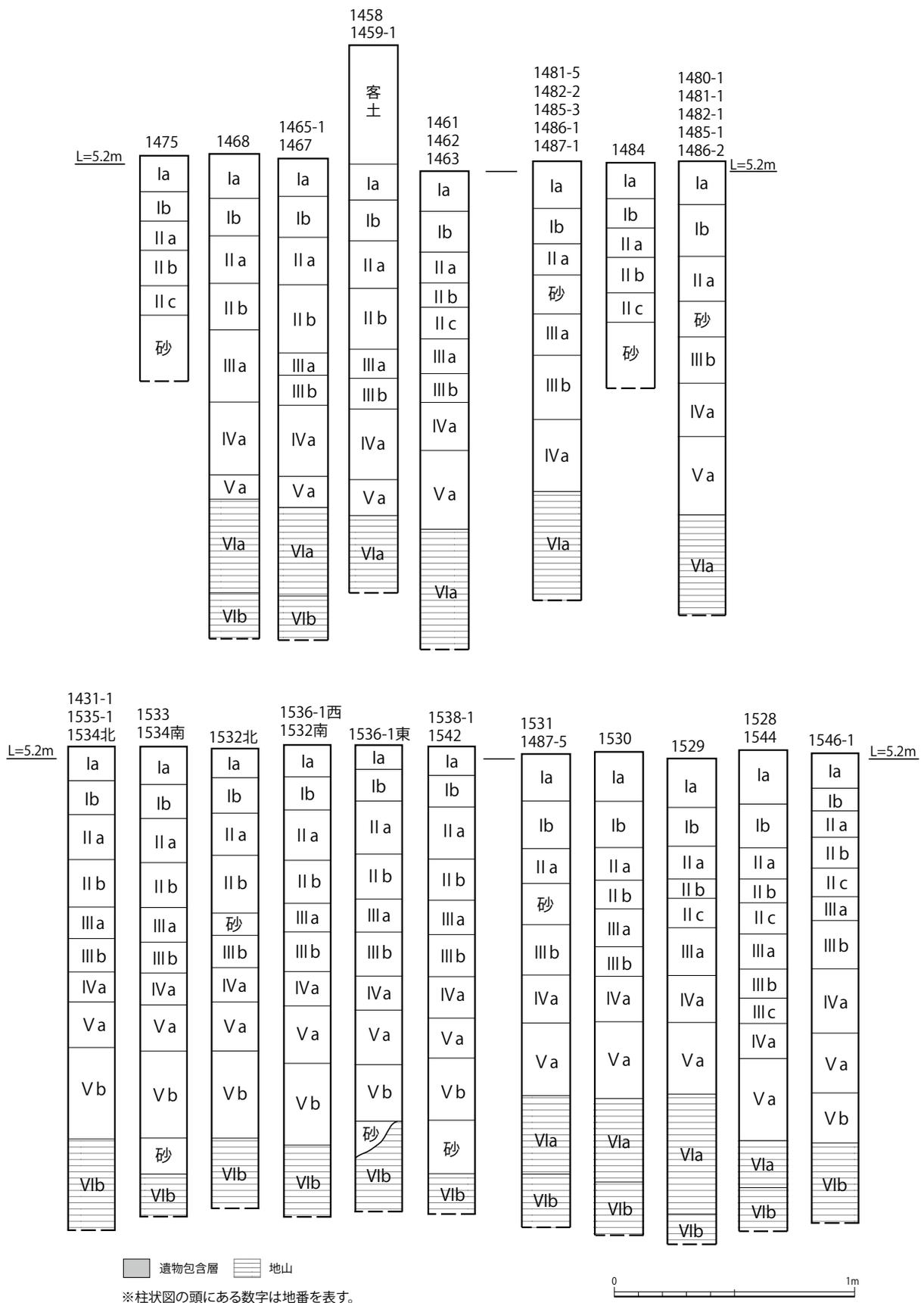
第27図 玉名平野遺跡群(B-2地点) トレンチ位置図

であるVI層が深い位置で確認された。B-2地点では、遺構・遺物は認められない。

B-3地点は、今回確認調査を実施した中でも最も南側の地点であり玉名バイパス北側で一部は、柳町遺跡の範囲を含む。この地点は、他の2地点でみられた砂層がほとんど見られない。IV層の堆積も一部の範囲に限られるが、1557-1番地、385番地トレンチに見られる遺物包含層(第30図②層)では、古墳時代の遺物が多く出土する。385番地トレンチでは、この遺物包含層から掘りこまれた遺構もト

レンチ壁面ではあるが検出しており、遺物包含層上面が遺構面となる可能性が高い。遺構の埋土は、黄灰色粘質土を主体とする土であり、さらに分層はできたがトレンチ壁面が崩落する危険があったため詳細な観察は避けた。遺構検出面から70cm下の遺構埋土内では、土師器甕(第28図5)が出土したことから遺構の時期は、古墳時代と考えることが妥当であろう。掘り方はさらに下方に伸びているため、遺構は井戸である可能性が高い。

地番が300番代と400番代の土地は、周辺より



第 28 図 玉名平野遺跡群 (B-2 地点) 土層断面柱状図



第 29 図 玉名平野遺跡群 (B-3 地点) トレンチ位置図

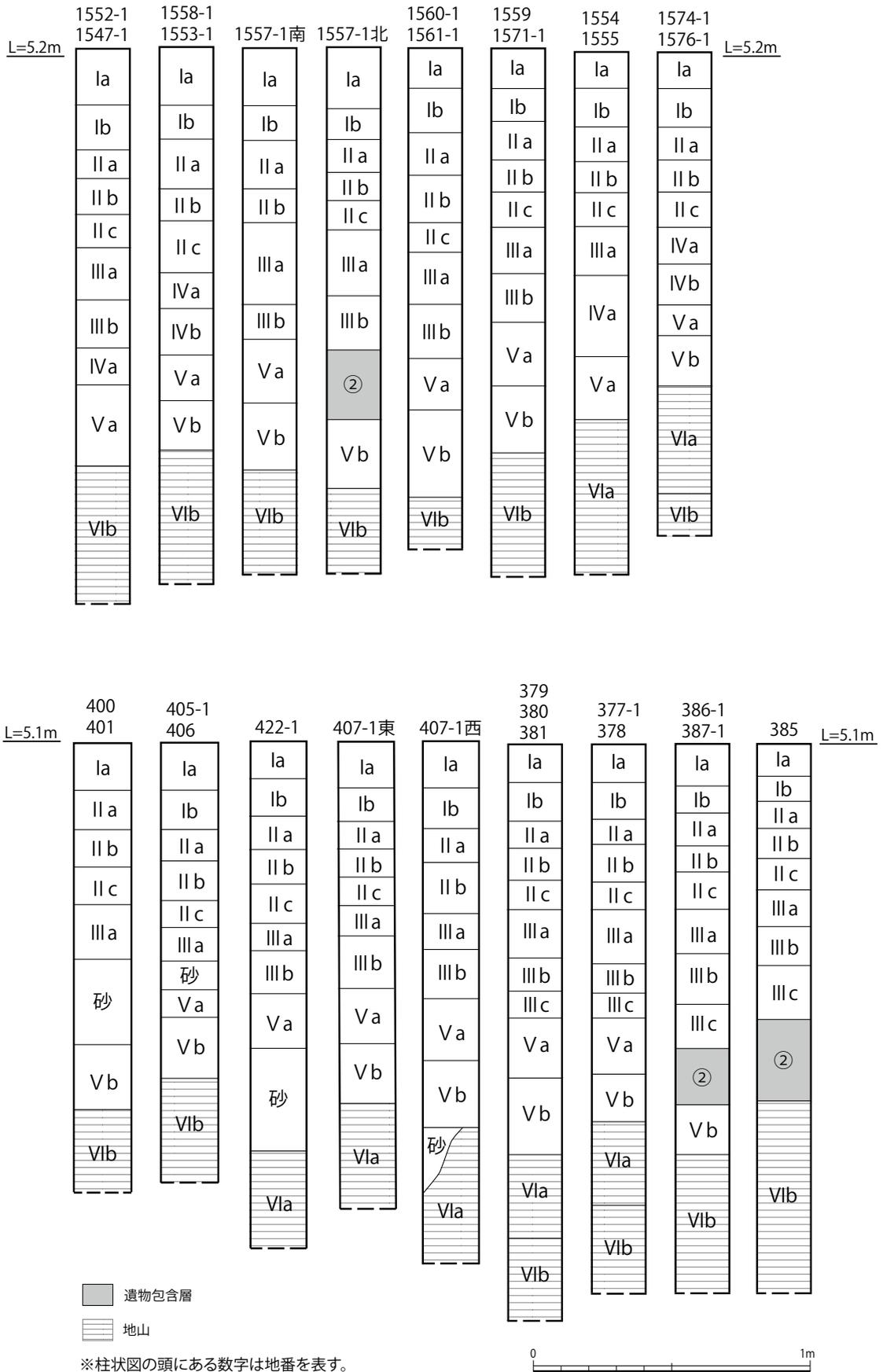
現地表面の標高が低く、遺物包含層も他の地点よりも深い位置で確認した。そのため、この地番の違いが旧地形を表している可能性も考えられる。

今回の確認調査で、もっとも埋蔵文化財が残存している可能性が高いのは遺物包含層が4か所で検出されたB-3地点と思われる。これは既に調査が実施され、多くの重要な遺構・遺物が見られた柳町遺跡の範囲と重なっていることから明らかであろう。B-2地点は、遺物包含層こそ発見されていないがIV層以降は地形的な起伏が小さく比較的平坦であるため、古い水田等が見つかる可能性が十分考えられる。B-1地点は、遺物包含層の存在に加えて、B-2地点でみられたIV層も堆積しており、ここでも古い水田が検出される可能性が考えられる。またB-1地点が立地する扇状地形の後背には古墳などの遺跡が多く存在し、崩落した遺跡から流入した遺物

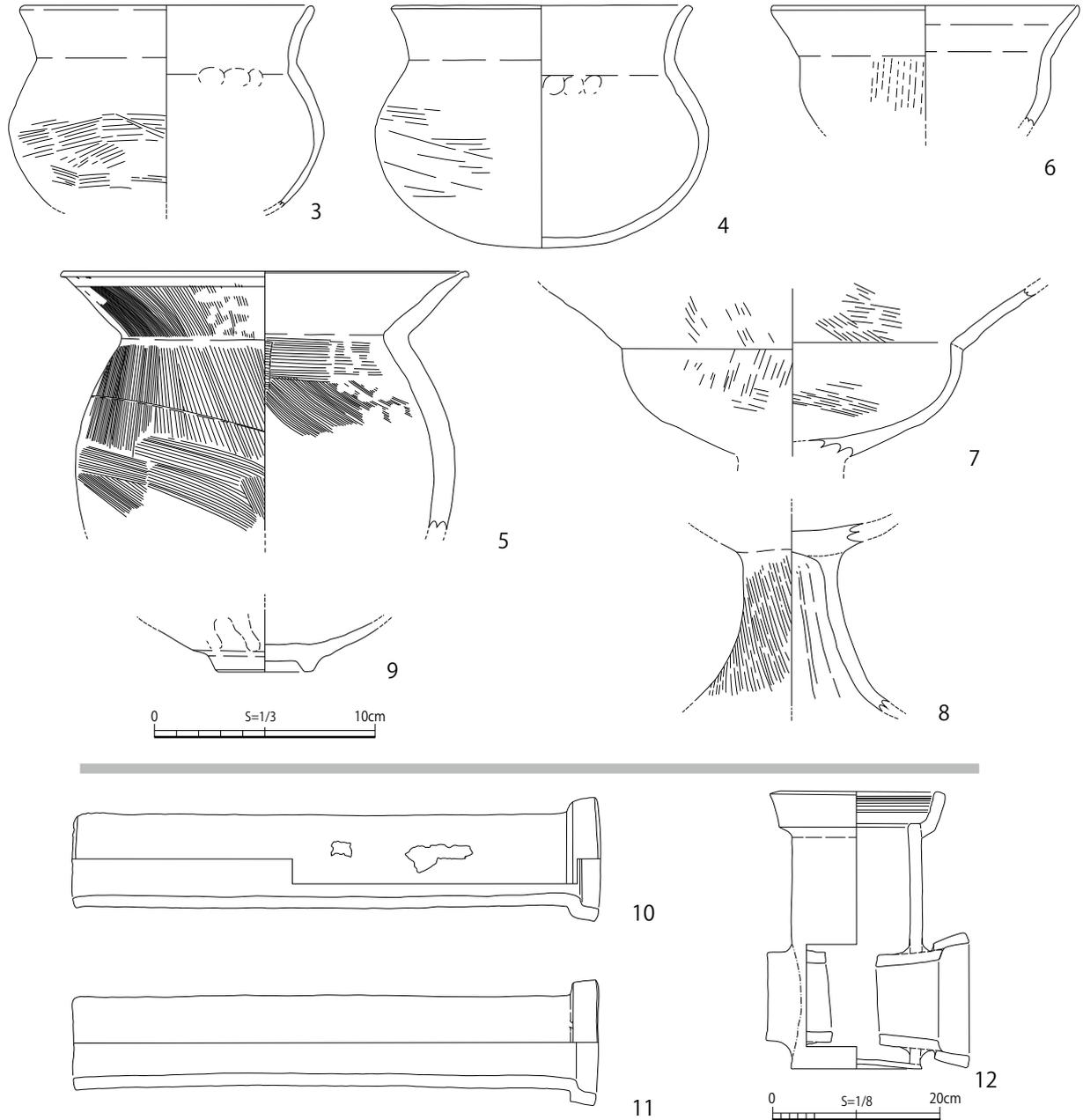
が砂層等から発見される可能性も含まれる。そのため、遺物包含層の下に堆積した砂層内における遺物の存在にも注意が必要である。

出土遺物（第 31 図 3～12）

3・4は、弥生土器鉢である。口縁部は「く」の字状で口縁端部はヨコナデにより若干外反する。頸部内面付近には口縁部と体部との接合時の指頭圧痕が残る。体部外面にはハケメ調整がみられる。体部内面は、丁寧なナデにより仕上げられる。4の底部外面には若干ズリの痕跡もみられる。5は、土師器甕の口縁部～体部片である。内外面ともにハケメ調整が見られるが口縁部はヨコナデにて仕上げられ、口縁端部には強めのヨコナデが行われる。肩部には黒斑がみられ口径よりも肩部径が狭い。6は、脚付鉢の胴部である。胴部外面にはハケメ調整のあとにナデが行われる。内面には全体的にナデが行われ口



第 30 図 玉名平野遺跡群 (B-3 地点) 土層断面柱状図



第31図 玉名平野遺跡群(B地点) 出土遺物実測図

縁端部は、ヨコナデにより成形される。7は、弥生土器高坏の坏部である。脚部は欠損しており、形状は不明である。坏体部外面にはハケメ調整のちナデが行われ、一部指頭圧痕が残る。外反する坏口縁部外面は、ヨコナデにて成形される。坏部内面は、ハケメ調整が行われ、坏口縁屈曲部内面は、ヨコナデが行われる。8は、弥生土器高坏の脚部で坏の底部が一部残存する。脚部外面にはハケメ調整が行われ、内面にはしぼり痕が見られる。9は、白磁碗の底部である。高台部まで施釉されておらず高台上部では釉溜りがみられる。また見込み部分は蛇の目釉剥ぎが行われる。10~12は、陶製土管である。10・11

は、粘土板を円筒形に成形し、片方の端部に一回り径の大きい受け部を接合したもので、全体的に食塩釉を施釉する。11は、端部に粗砂が大量に付着する。法量は、どちらもほぼ同一であるため規格が定められた工業製品と思われる。12は、水閘土管である。2本の短い陶製土管を縦、横に組み合わせたような形状をしている。縦管底部は貫通していない。横管は1本の土管ではなく、個別に作られたもので、それぞれを縦管に接合している。横管にはそれぞれ11・12の土管が接続された状態で検出されており、暗渠を保守・点検するための設備および排水管理ためのものと考えられる。



写真 14 玉名平野遺跡群 (B -1 地点) 1677 東 T 調査状況



写真 15 玉名平野遺跡群 (B -2 地点) 1458T 調査状況



写真 16 玉名平野遺跡群 (B -2 地点) 1461T 調査状況



写真 17 玉名平野遺跡群 (B -2 地点) 1465-1T 調査状況



写真 18 玉名平野遺跡群 (B -2 地点) 1529T 調査状況



写真 19 玉名平野遺跡群 (B -3 地点) 385T 調査状況



写真 20 玉名平野遺跡群 (B -3 地点) 1557-1 北 T 調査状況



写真 21 玉名平野遺跡群 (B -3 地点) 1560-1T 調査状況



写真 22 玉名平野遺跡群（B地点）出土遺物（3～9）



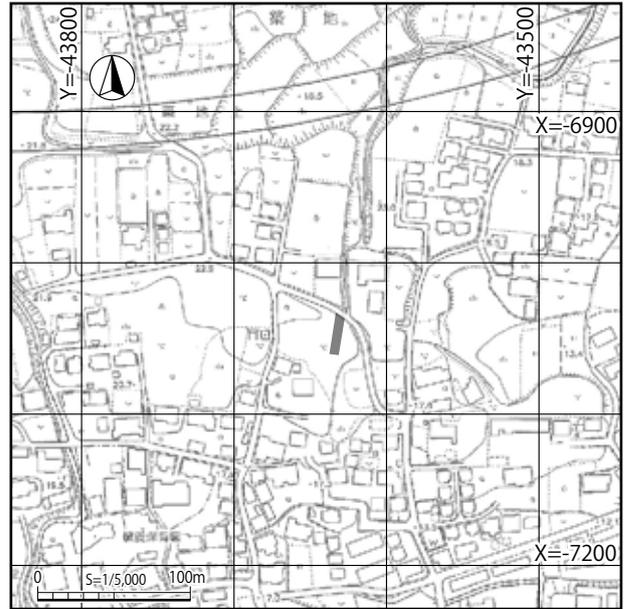
写真 23 玉名平野遺跡群（B地点）出土遺物（10～12）

9 築地館跡

所在地：玉名市築地陣内 2401
 調査原因：専用住宅
 対象面積：138.42㎡
 調査日：令和2年11月24日
 調査者：蜷父雅史

調査地は、境川右岸の台地上に位置する標高約18mの地点でこの一帯は、大野氏関連の中世居館跡と推定され土塁や空堀が現状でも確認される。

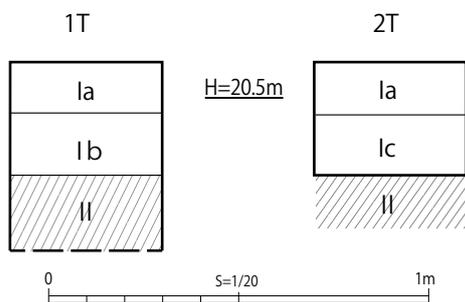
調査地にはトレンチを2本設定し、堆積状況と埋蔵文化財の確認を行った。その結果、調査地内は客土と整地層が地山である明褐色土層の直上まで堆積し、地山上で検出されたのは現代の攪乱以外は見当たらず、中世居館跡関連遺構やその他の埋蔵文化財は、認められなかった。西側隣地は、過去に実施された確認調査でピット群を検出したが、ピットの底がわずかに残っているだけで既に削平を受けている状況であった。これらの状況から今回の調査地も削平を受けており埋蔵文化財は、残存していないものと考えられる。そのため、埋蔵文化財に影響を及ぼす可能性は、低いと考えられ慎重工事となった。



第32図 築地館跡調査地位置図



第33図 築地館跡トレンチ配置図



- la 層 表土
- lb 層 客土
- lc 層 整地層
- II 層 明褐色土層 (7.5YR
しまり、粘性やや強い 無遺物層)

第34図 築地館跡土層断面柱状図



写真24 2トレンチ掘削状況 (南東から)

10 玉名平野遺跡群（C地点）

所在地：玉名市玉名

字下深田 1241-1,1242-1,1243-1

調査原因：薬局

対象面積：1935㎡

調査日：令和2年11月30日

調査者：中村安宏

調査地は、菊池川右岸における玉名平野の低湿地上に位置する標高約6.5m付近に広がる水田区画の一つである。

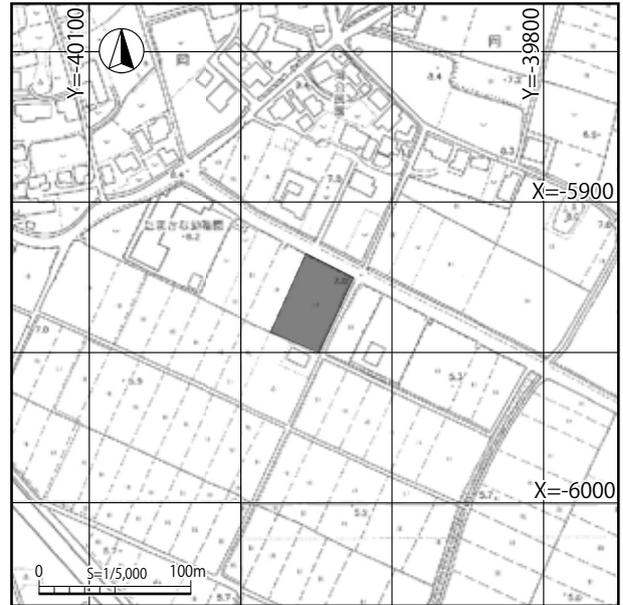
確認調査は、調査地の中央付近にトレンチを設定し堆積状況や埋蔵文化財の有無を確認した。トレンチは、地表面から約1.7mの深さまで掘削を行い、I層からIX層まで確認した。近隣調査区の発掘調査成果によればV層は、古代水田が検出された層で、VII層が調査地西側の白間山地から伸びる扇状地突端における砂胎の一部の砂層であり、IX層は、弥生時代の堆積層に相当すると考えられるがIX層に至るまで埋蔵文化財は、認められなかった。

以上のことから埋蔵文化財に対し影響を及ぼす可能性は低いと考えられるため慎重工事となった。

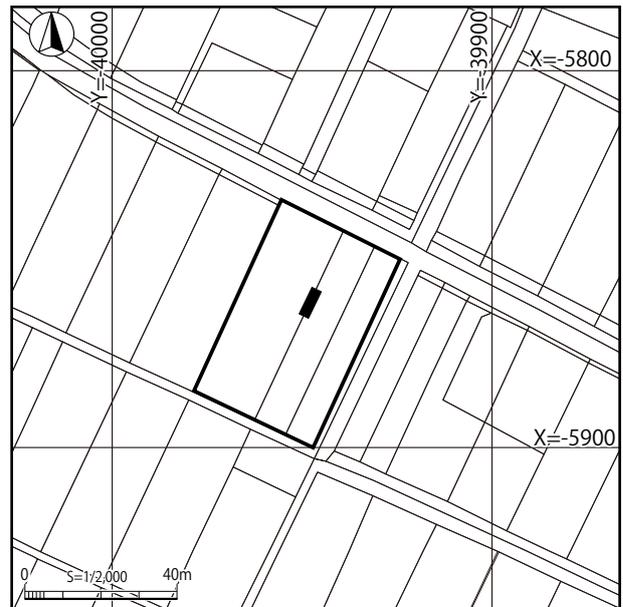
I	I層 現在の耕作土
II	II層 黒灰色土
III	III層 青灰色土 1～2mm大の砂粒を含む。
IV	IV層 白灰色土
V	V層 黒灰色土 砂粒含む。
VI	VI層 黒灰色土 砂粒含まない。
VII	VII層 砂層
VIII	VIII層 黒灰色土 砂粒含まない
IX	IX層 黒灰色土 砂粒含まない

0 1m

第37図 玉名平野遺跡群（C地点）土層断面柱状図



第35図 玉名平野遺跡群（C地点）調査地位置図



第36図 玉名平野遺跡群（C地点）トレンチ配置図



写真25 玉名平野遺跡群（C地点）トレンチ掘削状況（東から）

Ⅲ 令和2年度の調査 (発掘調査)

1 高岡原遺跡（東区・西区）

所在地 東区：玉名市山田字高岡原 1996-12
 西区：玉名市山田字高岡原 1996-7

調査原因：専用住宅

対象面積 東区：69.85㎡
 西区：78.00㎡

調査日 東区：令和2年9月10日～10月9日
 西区：令和2年10月21日～10月30日

調査者：中村安宏 齋父雅史

発掘作業員 東区：陶山哲士、中嶋明子
 西区：小塩勝美、陶山哲士、中嶋明子
 整理作業員 北嶋百合子、藤井めい子

令和3年度（報告書作成）

調査主体 玉名市教育委員会

調査責任 教育長 福島和義

調査総括 教育部長 藤森竜也
 文化課長 伊藤恵浩

課長補佐兼文化財係長 田中康雄

庶務担当 主査 宇田員将

報告書担当 主査 宇田員将

（1）調査体制

令和2年度（確認調査・整理作業）

調査主体 玉名市教育委員会

調査責任 教育長 池田誠一（令和2年12月3日まで）
 教育長 福島和義（令和2年12月4日から）

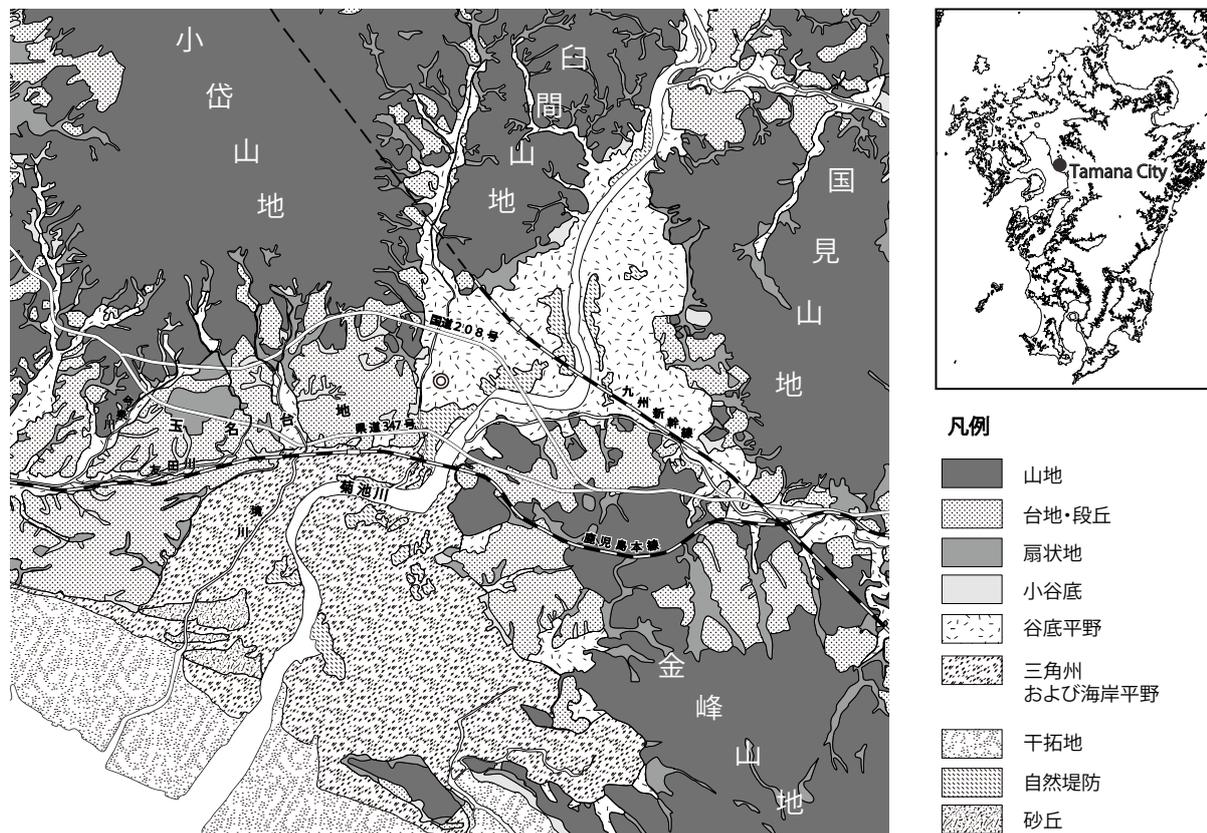
調査総括 教育部長 西村則義
 文化課長 伊藤恵浩
 課長補佐兼文化財係長 田中康雄

庶務担当 主査 齋父雅史

調査担当 主査 中村安宏
 主査 齋父雅史

（2）調査に至る経緯

今回は、両区とも専用住宅の新築にともない、それぞれ令和2年8月18日（東区）、令和2年10月16日（西区）に文化財保護法第93条第1項に基づく埋蔵文化財発掘の届出が提出され、東区にて確認調査を実施した。確認調査の結果から発掘調査を実施する必要が生じたため、令和2年9月8日（東区）、令和2年10月16日（西区）付けで文化財保護法第99条第1項に基づき埋蔵文化財発掘調



第38図 遺跡周辺地形分類図



- | | | | | | |
|-----|--------------|-----|-----------|-----|----------|
| 78 | 山田山吉祥寺跡 | 177 | 中尾馬場古塔碑群 | 413 | 鳥居原遺跡 |
| 83 | 山田中嶋遺跡 | 178 | 玉名高校校庭遺跡 | 490 | 平嶋遺跡 |
| 84 | 山田松尾平遺跡 | 180 | 春出丸塚 | 536 | 南大門遺跡群 |
| 86 | 糠峯古墳 | 182 | 春出遺跡 | 542 | 立願寺池 |
| 87 | 糠峯西畑遺跡 | 184 | 南出遺跡群 | 543 | 官道跡 |
| 91 | 玉名郡家跡 | 185 | 南出地下式土坑 | 544 | 天神木遺跡群 |
| 93 | 松尾原遺跡 | 186 | 南出甕棺群 | 545 | 天神木古墳参考地 |
| 94 | 立願寺廃寺 | 188 | 肥後同田貫鍛冶跡 | 546 | 中尾川原遺跡 |
| 98 | 下立願寺遺跡群 | 190 | 亀甲遺跡群 | 550 | 中世道 |
| 103 | 松尾遺跡 | 218 | 高瀬藩邸跡 | 557 | 慶専寺 |
| 157 | 妙性尼寺跡 | 408 | 山田神社門前遺跡群 | 558 | 慶専寺古塔碑群 |
| 162 | 東南大門遺跡 | 409 | 中尾城ノ下遺跡 | 646 | 西畑遺跡 |
| 163 | 古閑遺跡 | 410 | 中尾馬場遺跡 | | |
| 174 | 高岡原遺跡 | 411 | 中尾西原遺跡 | | |

第 39 図 高岡原遺跡周辺遺跡分布図



第 40 図 高岡原遺跡調査範囲一覽

査の通知を行い、それぞれの駐車場設置部分に調査区を設定し、発掘調査を実施した。

(3) 地理的環境

玉名市は、熊本県北部に位置する面積 152km²、人口約 6 万 5 千人の地方都市である。市域は阿蘇西麓を源流とし有明海に注ぐ菊池川の下流域を占め、九州最大の内湾である有明海に面している。市域中央部を流れる菊池川の周辺には、その支流である繁根木川、木葉川によって形成された玉名平野が広がる。玉名平野は 3 つの山地と 2 つの台地に囲まれ、その内の一つである玉名台地上に高岡原遺跡が展開している。玉名台地は、標高 501.4m の筒ヶ岳を主峰とする小岱山地の南縁に形成された台地で、玉名市域西側一帯に広がっているが、台地は著しく開析を受け、境川や友田川が形成した谷底平野によって所々分断される。台地崖下では、比較的豊富な湧水がみられるため、古くから生活用水や農業

用水として利用されているが、近代になると新たに開発された下流域に広がる農地の灌漑用水確保を目的とし、谷の狭窄部（出口）に堤防を築き湧水を貯える谷池形式の溜池を数多く整備していった。戦後の空中写真では、台地上の大部分が農地で、集落は台地上の限られた範囲に集中している様子がうかがわれるが、糠峯団地（昭和 52 年に完成）の大規模開発を皮切りに徐々に宅地化が進み、平成 13 年に市道築地立願寺線が完成すると沿線に大型店舗が出店しはじめ、平成 23 年に玉名バイパスが全線開通すると市街地化の動きがさらに加速した。

(4) 歴史的環境

境川の谷底平野により分断された玉名台地東部に所在する高岡原遺跡は、玉名市内における弥生時代後期の代表的な遺跡であるが縄文時代から中世にかけての遺構も所在する。遺物に関しては、旧石器と思われる黒曜石製の尖頭器 1 点が平成 20 年度の調

査区で攪乱層から出土し、同遺跡に隣接する糠峯西畑遺跡（第 39 図 087）では平成 13 年度の調査で後世の遺構埋土からサヌカイト製の尖頭器 1 点が出土したことから、旧石器時代においても遺跡周辺で人々が活動していたことがわかる。

平成 14 年度の確認調査では、縄文時代の土坑が 3 基発見され、併せて石斧、磨石、円盤型石器が出土、また平成 20 年度確認調査では、深鉢の底部片が出土するなど高岡原遺跡では縄文時代においても遺構の検出や遺物が出土している。

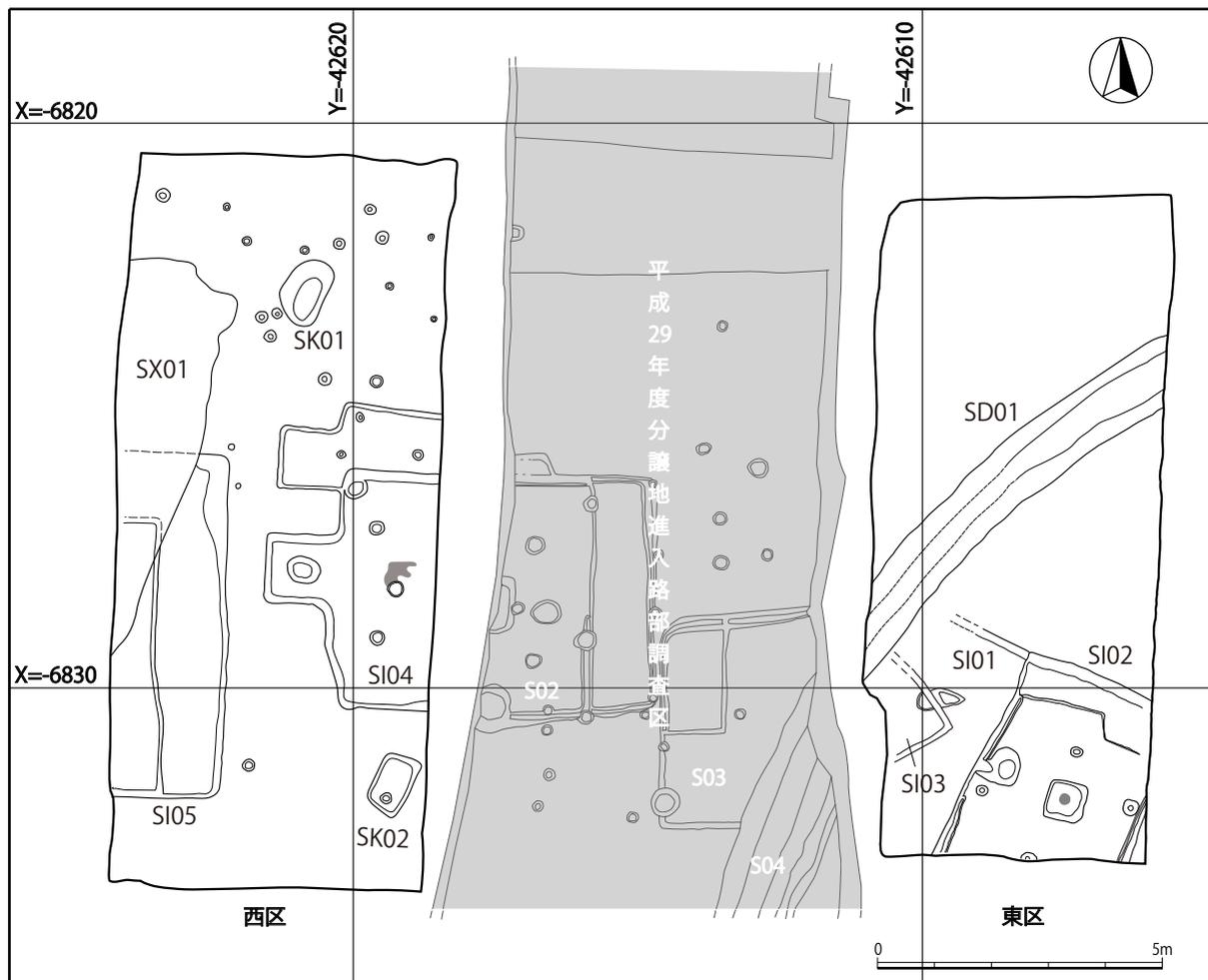
高岡原遺跡含むその周辺では弥生時代前期の遺構は未確認だが、中期に関しては令和元年度に調査を実施した鳥井原遺跡（第 39 図 413）で 4 基の竪穴住居を検出し、糠峯西畑遺跡で検出した甕棺墓と合わせ、玉名台地東部に弥生時代中期の集落が存在したことは明らかであろう。弥生時代後期になると、高岡原遺跡では多くの竪穴住居跡が発見されており、同遺跡が弥生時代後期における拠点集落の一つであった可能性が高い。平成 4 年度の調査では、24 基の住居跡と共に後漢鏡（破鏡）や小型仿製鏡が出土し、平成 17 年度に実施された南側隣地の発掘調査では、竪穴住居跡 6 基を確認し、土器と共に袋状鉄斧が出土した。平成 29 年度には、平成 17 年度調査区の西側隣地において調査を実施し、弥生時代後期末を中心とした遺構を確認、土器と共に袋状鉄斧、鉈などの鉄器も出土した。また同年の分譲地進入路部分における発掘調査では竪穴住居跡 6 基を検出した。

古墳時代に入るとそれまで主に台地上で展開していた集落は、弥生時代終末期から古墳時代前期を境に途絶し始め、新たに沖積地上に集落が出現し始める。また玉名平野に面した丘陵地では古墳が多く出現する。高岡原遺跡周辺では、天神木古墳（第 39 図 545）や糠峯古墳（第 39 図 086）があるが、天神木古墳は、古墳参考地であり、糠峯古墳は、団地建設用地の造成時に損失してしまっているためその古墳の規模や形状、築造時期などの詳細は不明である。そのような中、平成 29 年度の分譲地進入路部分における調査で、古墳時代の竪穴住居 1 基を検出したことは、同遺跡内あるいはその周辺にこれらの古墳に関係する集団が存在していた可能性を考え

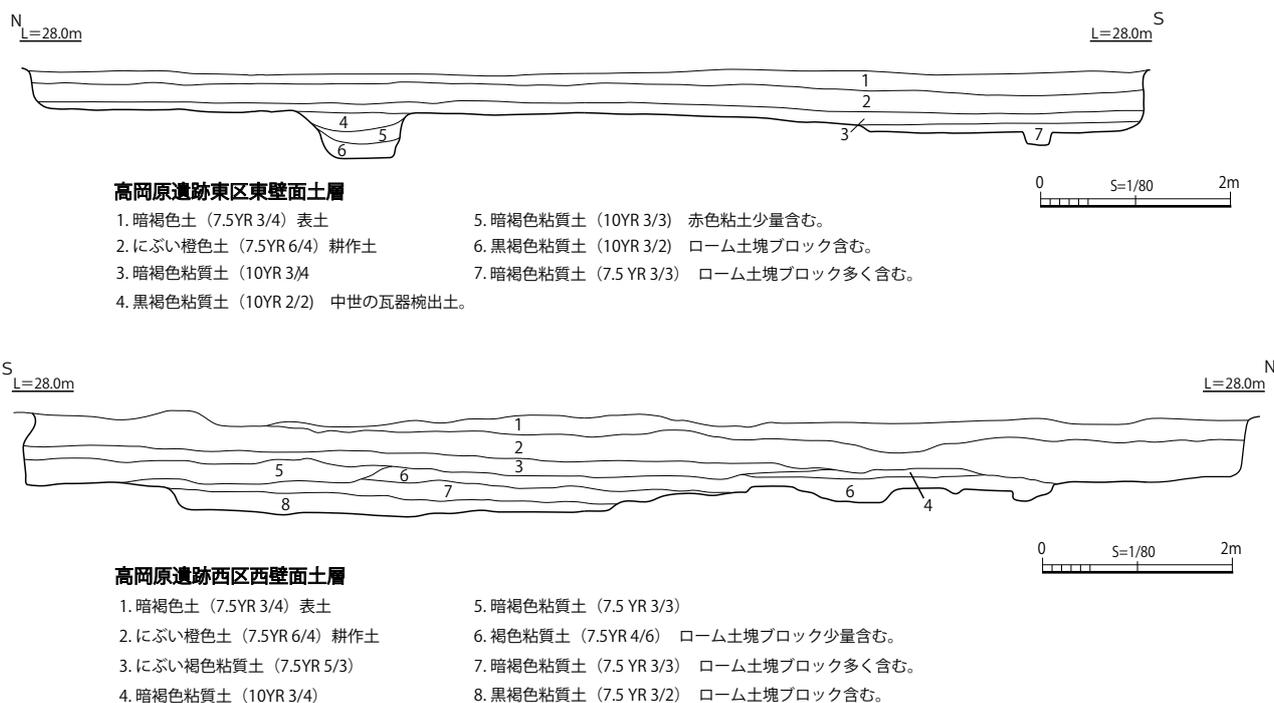
る根拠となるであろう。

玉名台地東部には、古代前期に立願寺廃寺や玉名郡倉跡などに代表される玉名郡衙関連遺跡が立地しており、玉名郡の拠点として中心的役割を担う場所であった。玉名郡は、日置氏が郡司を務め、玉名平野開発に大きく貢献したといわれるが、小岱山南麓で古代から始まった鉄生産にも関与するとされ、玉名平野の開発と鉄生産を伴った大きな経済的基盤を持っていたとされる。高岡原遺跡は、玉名郡衙に関連する遺跡群の西側に立地しており、検出された古代の遺構はこれらと無関係ではなかったであろう。平成 11 年度、平成 14 年度、平成 17 年度にそれぞれ実施した確認調査では、幅 1m 前後の溝を検出し、平成 12 年度の確認調査では古代道路を示す波板状遺構、平成 20 年度の確認調査では、古代まで遡る可能性が考えられる道路遺構（山田村道）の路肩を検出するなど、玉名台地東部における一連の古代遺跡群の存在が想定される。

古代後期になり律令体制が崩壊し、地域支配が荘園公領制へ変化する中で、日置氏の勢力も衰退し、伊倉郷の一員郡司におさまり、玉名郡に対する影響力は限定的となった。そのような社会情勢の中で、高岡原遺跡が立地する玉名郡西郷の一員郡司となったのは大野氏であった。遺跡範囲の西端にはかつて高岡城跡（現在は高岡原遺跡に含まれる）とされた場所が存在するが、ここには、後に大野氏となる紀国隆、もしくはその長男が住んでいたという伝承がある。この周辺では平成 11 年度の確認調査で南北に伸びる 2 条の溝が検出され、平成 17 年度の確認調査でも南北に伸びる溝状遺構を検出した。これらの溝は、幅が約 4m 近くあるため高岡城西側の区画溝であった可能性が考えられる。また平成 28 年度に実施した大型店舗建設に伴う調査では、中世の掘立柱建物 6 棟、溝状遺構 1 条などを検出するとともに、14 世紀～16 世紀代の青白磁などが出土したことから、少なくとも 14 世紀代にはこのあたりに城（居館）があった可能性は高い。紀国隆は 10 世紀代中頃もしくは 12 世紀末の人物とされ、その長男もそれに近い時期の人物と想定されるため、伝承通りであるとは考えにくい、高岡城跡が大野氏に関係していた可能性は十分考えられる。



第41図 高岡原遺跡東・西区遺構配置図



第42図 高岡原遺跡調査区壁面土層図

（５）調査の方法

平成 29 年度に分譲地の進入路造成工事に伴って発掘調査を実施したが、今回は、その進入路の東西に接する専用住宅の駐車場部分に調査区を設定した。進入路東側に設定した調査区を東区、西側に設定した調査区を西区とし調査を実施した。それぞれの調査区は隣地の構造物に影響を及ぼさないよう土地境界より 50cm ほど内側の範囲で設定した。調査区の表土掘削は平爪を装着したバックホーを使用し、包含層および遺構掘削は移植ごてや三角ホーを使用し人力で行った。実測図は概ね 1/20 で記録し、一部写真測量を用いて図化した。記録写真撮影はすべてデジタル一眼カメラを使用した。出土した遺物はすべて水洗いを行い、乾燥させたのち必要事項を記入したラベルと一緒に袋にいれ、保管している。

（６）調査区の概要と基本層序（第 42 図）

東区では 3 基の竪穴住居と 1 条の溝を検出し、西区では 2 基の竪穴住居と 2 つの土坑、1 つの不明遺構とピットを多数検出した。これらの遺構の内、東区の SD01 や西区の SI04 のように平成 29 年度調査で検出された遺構とプランが合うものもみられ、遺跡の連続性を示している。

東区は、SD01 上層で瓦器破片が出土したことを考慮すると、中世以後に調査区内の遺構はすべて埋まっていたと考えられる。遺構面の上に堆積する東区 1・2 層は、一定の厚さで平滑に広がる耕作土であり、遺構埋没後は、現代まで畑地として安定的に利用されていたことがうかがわれる。西区も畑地であったため耕作土層（西区 1・2 層）がみられるが遺構面と耕作土層との間には西区 3～6 層の堆積がみられる。これは平成 29 年度調査の基本層序でも同様で、耕作土と遺構面との間にⅢ層（Ⅲ a・Ⅲ b）の堆積があり、それぞれ近世・近代相当の層と想定している。このことから西区 3・4 層がⅢ a 層、西区 5・6 層がⅢ b 層にそれぞれ相当すると考えられる。これは、東区 3 層も同様にⅢ層の範疇で考えることができるため、遅くとも近代には調査区周辺の整地が伴う耕地化がなされたと考えることができる。

（７）高岡原遺跡東区の遺構と遺物

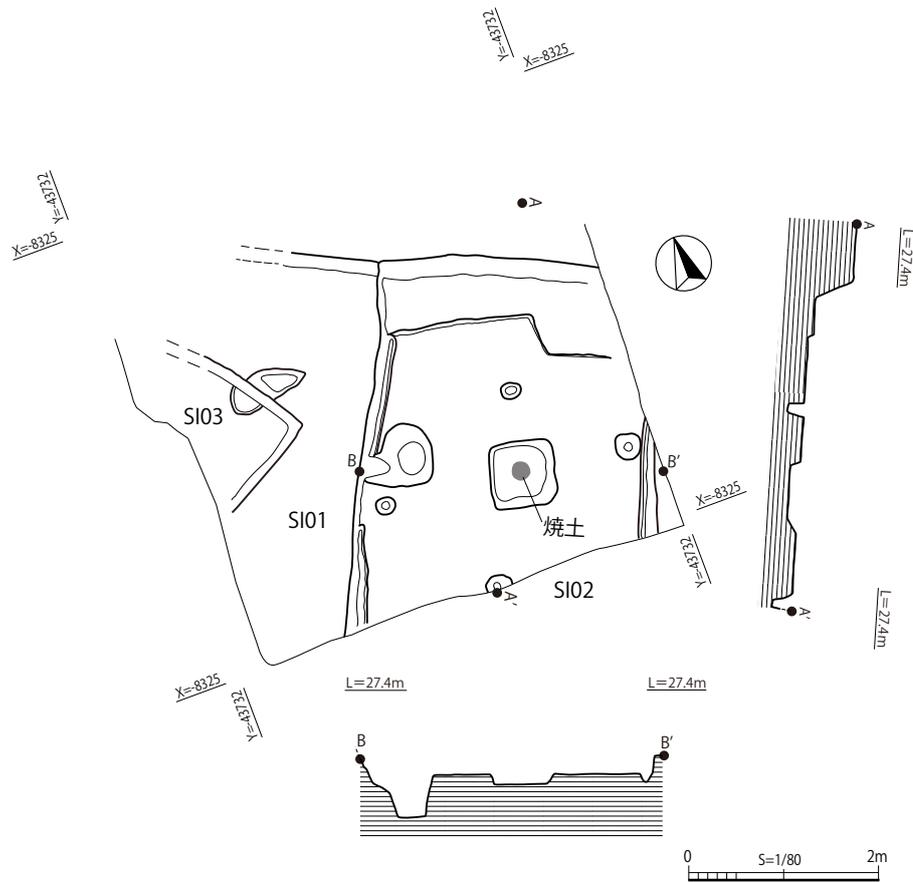
竪穴住居 SI01～SI03（第 41 図・第 43 図）

SI01～SI03 は、それぞれのプランが切り合い、全体のプランを確認できないがいずれも方形の竪穴住居と想定される。SI01 は、残存するプランから南北軸が約 4.3m で深さ、約 20cm を図る。ベッド状遺構などの付帯設備は認められない。SI02 は南北軸が約 3.7m、深さ約 37cm の法量をもつ。北側には高さ 5cm 程度のベッド状遺構が見られるが東側に段差が認められるためこちらにもベッド状遺構が設けられた可能性がある。西側は SI01 と切り合っており、ベッド状遺構の有無は不明である。住居の中央付近には長さ約 67.2cm、深さ約 11.2cm の方形土坑がみられ、土坑の底には焼土が確認されたため、この土坑は炉と考えられる。この炉を挟んで径約 21cm の柱穴が 2 穴認められる。

SI03 は角を持つプランが検出されたため方形プランの竪穴住居と考えられるが、検出範囲が狭く詳細は不明である。平成 29 年度に実施された進入路の調査区において、SI01・SI03 に合うプランは見つかっていない。遺物は、ほとんどが SI02 から出土しており器種も様々であるが、概ね弥生時代後期後葉～弥生時代終末期のものが多い。

出土遺物（第 44 図 13～27・29）

13 は、弥生土器壺の底部である。全体的に表面が摩滅しており、調整の詳細は不明であるが、外面には若干ハケメが、内面には指頭圧痕がみられる。14 は、弥生土器鉢の口縁から底部片である。体部から底部にかけて外面に黒斑が見られる。器表面は摩滅が激しく調整は不明。胎土には長石粒を多量に含む。15 も弥生土器鉢である。14 と同様に胎土には長石粒を多量に含む。口縁部付近はヨコナデ、口縁端部はナデにて面を持たせる。体部外面にはハケメ調整が行われる。体部内面にもハケメ状の痕跡が見られるが、ナデ痕跡の可能性もある。16～20 は、弥生土器甕の脚部である。16～20 の脚端部は、丁寧なヨコナデにより面を持たせる成形がなされる。16・17 と比べ 18～20 の脚端部は外にしっかりと張り出す。16・17 は、底部内面にハケメが見られる。19 は、摩滅が激しく詳細は不明であるがハケメ調整が行われた可能性がある。20 は、外



第43図 高岡原遺跡東区 SI01～03 平面図・断面図（断面図は SI02 のみ）

面に細かいハケメ調整がみられる。21は、弥生土器壺口縁部である。外面には口縁端部まで伸びるハケメ調整が行われるが、口縁端部を成形する際のヨコナデにて端部付近のハケメ痕は消されている。口縁部は外反し、端部が丸く成形される。22は、弥生土器壺の口縁部から体部片である。口縁端部は、つまむようにヨコナデを行うことで端部断面に角を持たせる。口縁部にはハケメ調整、頸部には突帯を貼り付け、突帯の下部には奥から手前に工具を移動させる動作を連続して行い、突帯下部に刺突文を巡らせる。体部は、タタキが行われている。23・24は、弥生土器高坏の坏部である。23は、胎土に長石粒を多量に含み、端部と坏体部との接合部には段差がみられる。端部は、ヨコナデにより大きく外反させる。24は、外面に細かいハケメ調整が見られるほかは摩滅が激しく詳細は不明。脚部との接合には粘土塊を用いたと思われる。25は、弥生土器高坏脚部である。全体が摩滅しているため詳細は、不明であるが上部は、頸部との接合面であったと思われる。

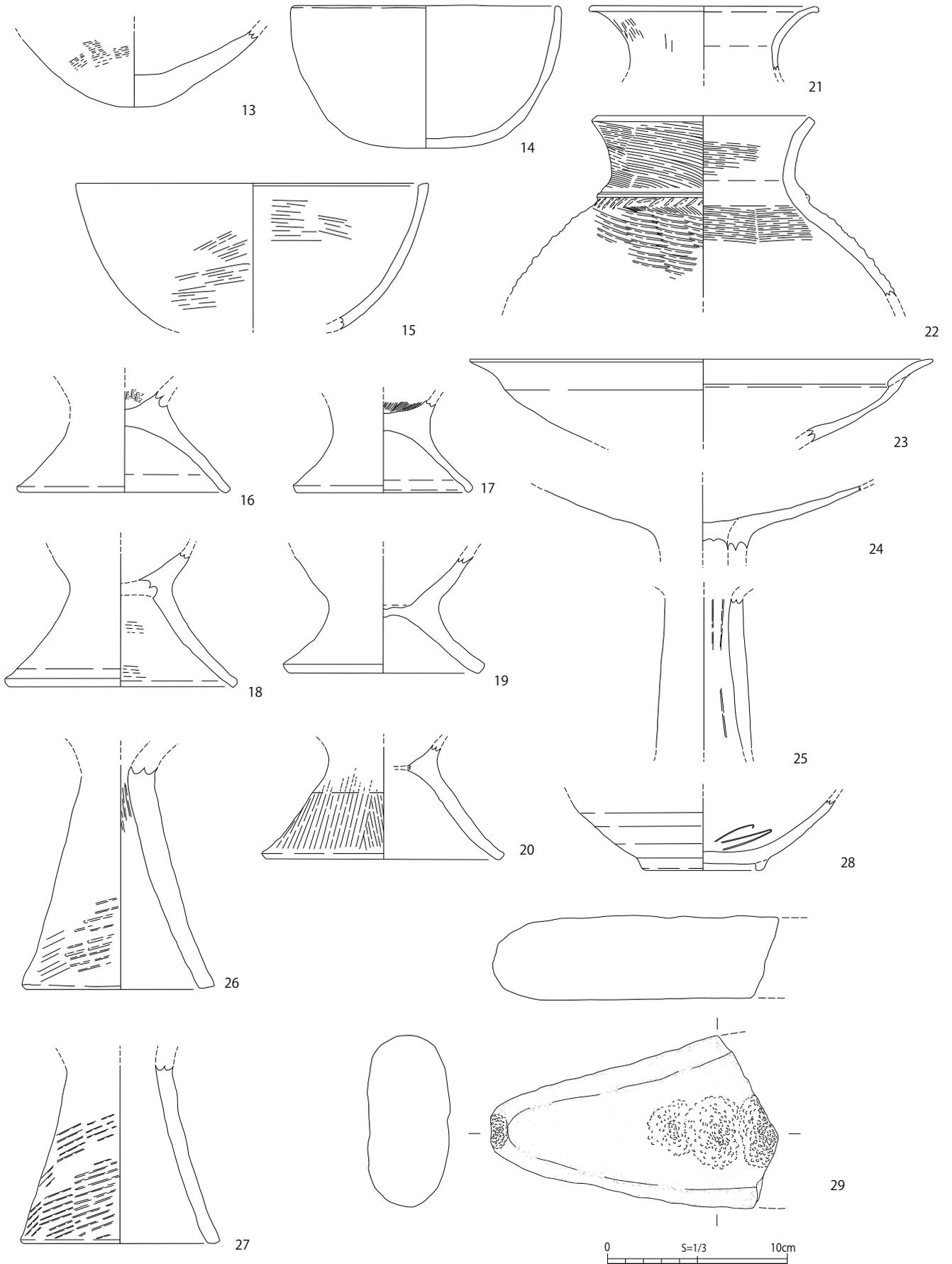
る。26・27は、弥生土器の器台下部である。外面は、いずれもタタキが行われる。端部は、ヨコナデにより面を持たせるような成形が行われる。29は、安山岩製の台石片である。三角形であるが、欠損部位があり、全体の形状は不明。端部にも敲打痕が見られ、敲石としても利用されていたと思われる。

溝 SD01（第41図）

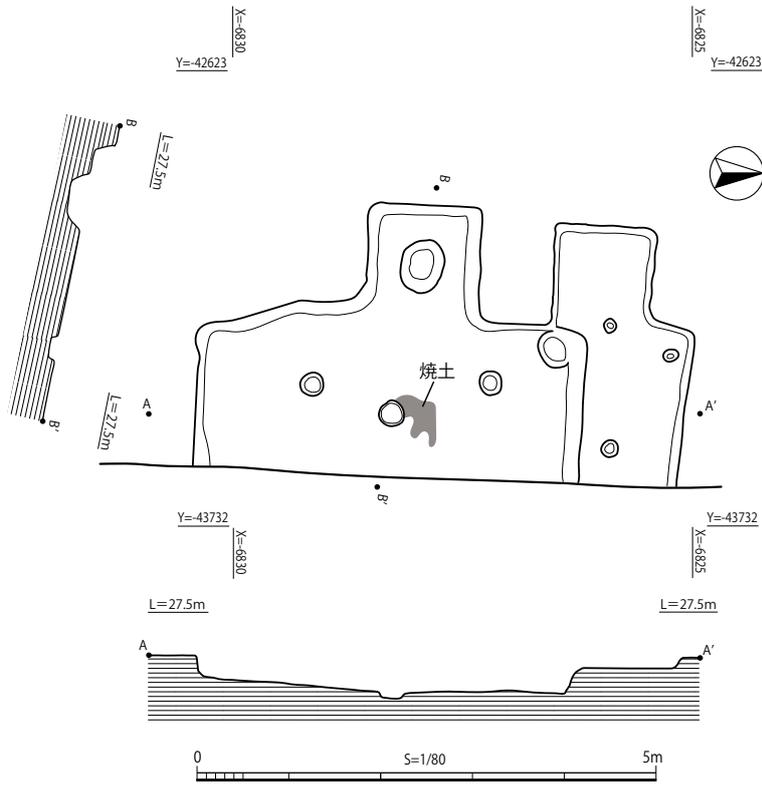
調査区を南西から北東方向に斜めに伸びる溝で深さ約50cm、断面形状は逆台形である。埋土は、3層に分かれ（第42図 4～6層）、最上層では12世紀後半から13世紀初頭の瓦器破片が出土したため、中世前期には埋没していたと考えられる。

出土遺物（第44図 28）

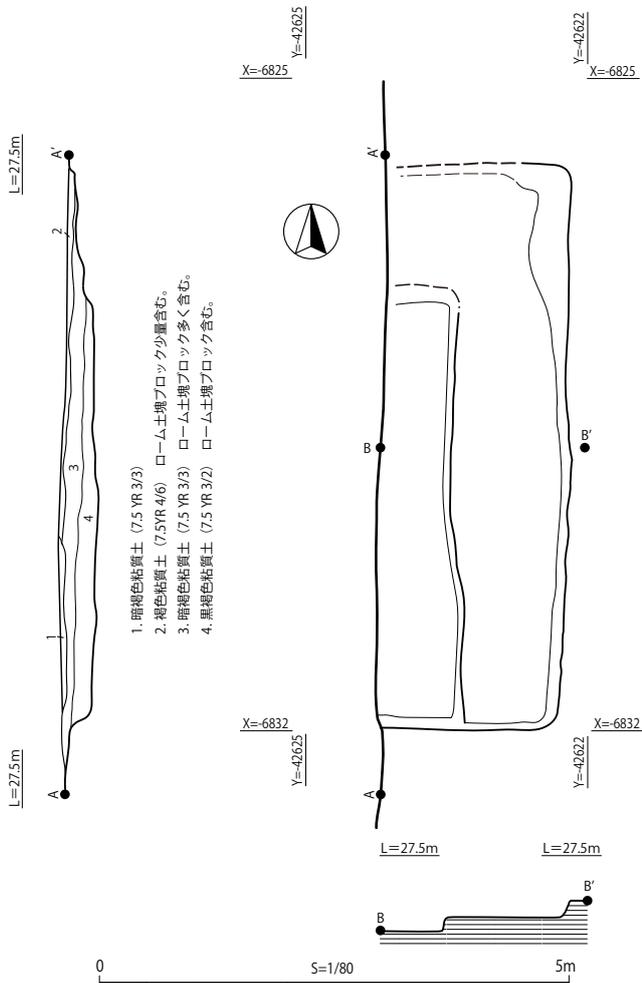
28は、瓦器破片である。体部下半は、ユビオサエにて成形し横方向にヘラケズリが行われる。底部には低く断面が鈍い三角形の高台が貼り付けられる。ミガキは、内面で確認され、体部から見込み部にかけて横方向に行われるが粗雑である。炭素の吸着は、外面が顕著にみられるが内面はあまり見られない。



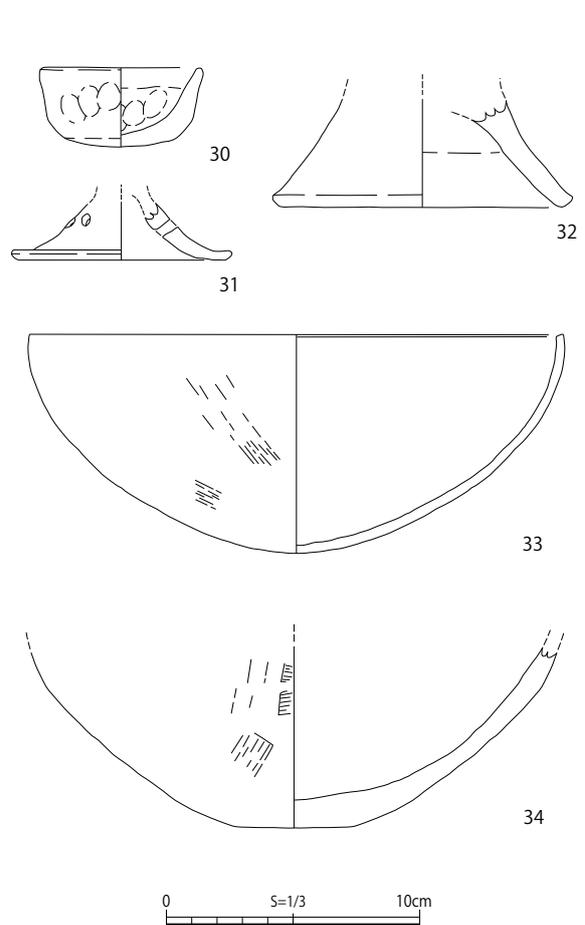
第 44 図 高岡原遺跡東区出土遺物実測図



第45図 高岡原遺跡西区 SI04 平面・断面図



第46図 高岡原遺跡西区 SI05 平面・土層・断面図



第47図 高岡原遺跡西区出土遺物実測図

（8）高岡原遺跡西区の遺構と遺物

竪穴住居 SI04、SI05（第 41 図・第 45 図・第 46 図）

SI04 は、南北軸が約 4.2m、深さ約 37cm の不整形プランを持つ竪穴住居である。西側に突出部があり、そこには土坑が掘削される。プラン北側にも突出部がみられるが、床面に対し段差があるためベッド状遺構の可能性もある。検出プラン中央のピット北側では焼土を検出した。SI04 と対応する平成 29 年度調査で検出した竪穴住居のプランと合わせると、東西約 6.8 m、南北 4.8 m のプランで支柱穴が 4 穴の住居が想定される。SI04 が想定プランである場合、検出された焼土範囲は住居の中心から大幅に西側に偏るため、別の竪穴住居に付帯する炉の一部となる可能性があり、同様に SI04 北側段差も別の竪穴住居プランに付帯する可能性がある。

SI05 は、西壁側で検出された竪穴住居である。南北軸約 6m、深さ約 34cm でベッド状遺構が L 字状にみられるが、柱穴や焼土などは検出されず、調査区外にプランが伸びていることもあり詳細は不明である。

土坑 SK01、SK02(第 42 図)

SK01 は、長さが約 1.2m、深さ約 32cm の楕円形状の土坑で、底は平坦となっている。SK02 は、長さ約 1.0m、深さ約 5cm の隅丸方形の土坑であるが土坑の南側にはさらに径約 20cm、深さ約 13cm のピット状の掘り込みがみられる。いずれの土坑も遺構の性格・時期などの詳細は不明である。

不明遺構 SX01（第 41 図）

SX01 は、調査区西壁側で検出された遺構である。一見すると方形プランの竪穴住居と思われたが、遺構底面は凹凸が激しく、平坦な床面は見られなかったため竪穴住居ではなく不明遺構とした。SX01 は、SI05 と切り合い関係がみられ、SI05 よりも新しいものである。

出土遺物（第 47 図）

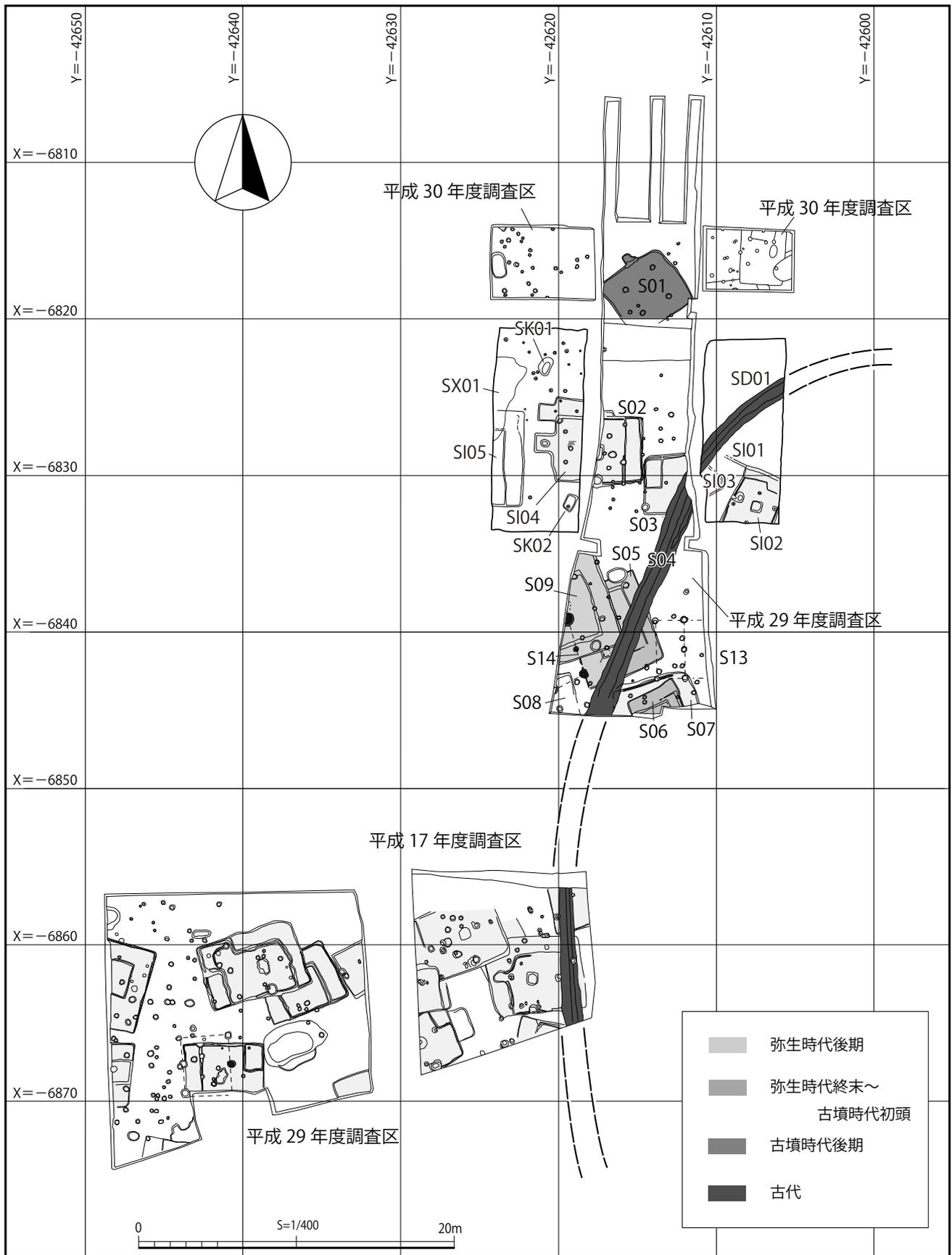
30 は、弥生土器鉢のミニチュア土器である。いわゆる手捏ね土器と呼ばれるもので、全体的に指頭圧痕が見られる。指頭圧痕は底部を中心に回しながら成形し、仕上げに体部から口縁部にかけてヨコナデが行われる。31 は、弥生土器脚付鉢の脚部と思われる。脚端部は、ヨコナデにて成形され大きく

広がり若干上方に反り返る。また脚部中ほどには 2 対の穿孔が見られる。32 は、弥生土器甕脚部である。内外面ともにヨコナデにて成形されるが、脚端部は、外側に踏ん張る形状で丁寧にヨコナデが行われており面が形成される。33 は、弥生土器鉢である。土器の表面は、摩滅しているが体部外面にはハケメ調整が残る。口縁端部は、内外面からヨコナデすることで面を形成させる。34 は、弥生土器壺底部片である。底部は、丸底の頂点が平坦になっている。外面には黒斑がみられる。器面調整は、外面に関してはハケメ調整やナデが行われるが内面は、調整が摩滅しており詳細は不明である。

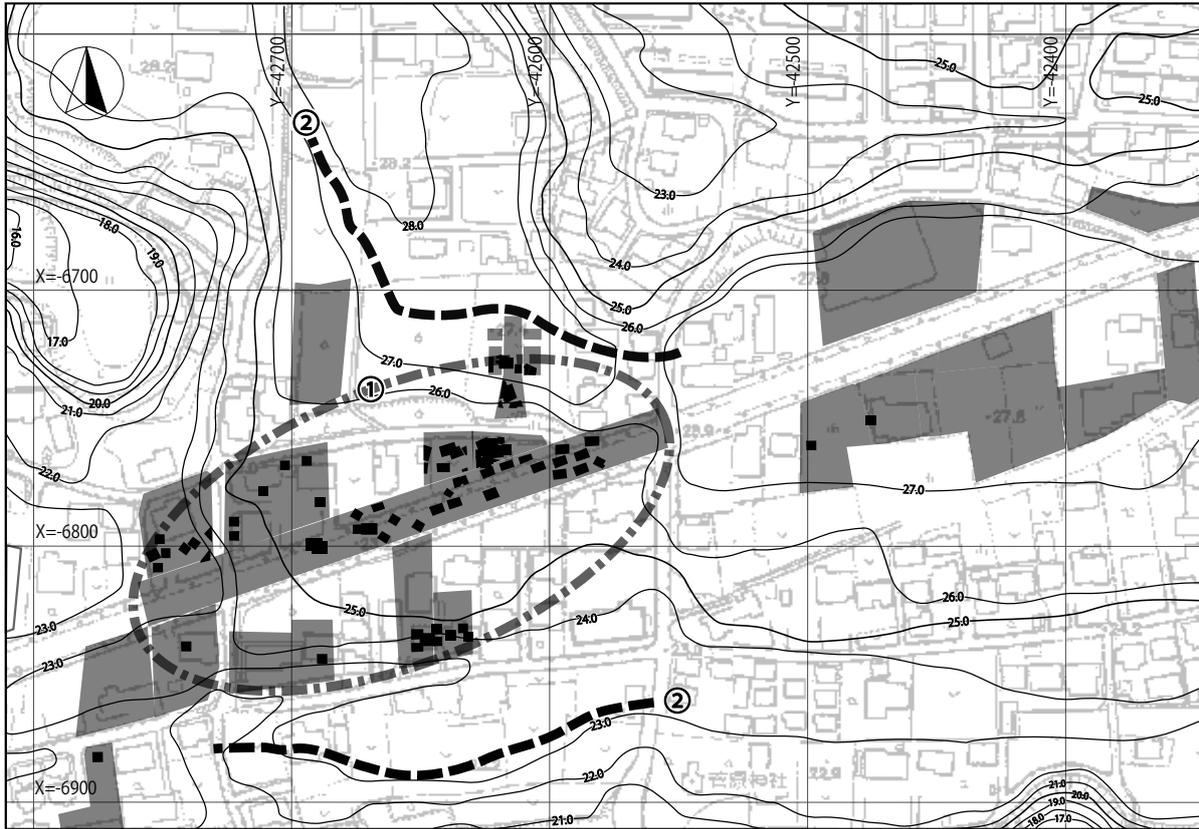
（9）まとめ（第 48 図）

今回の調査は、平成 29 年度に実施した分譲地進入路部調査区の調査成果を考慮し、遺構の広がりを把握した上で高岡原遺跡の性質を解明することが一つの課題であった。調査の結果、分譲地進入路部調査区の S02（以下 S02 とする）・S04（以下 S04 とする）が今回の調査区で検出された遺構と一体となる可能性が高くなった。SI04 は、S02 と同じ竪穴住居となる可能性が高く、SD01 も S04 と同じ溝であることが判明した。分譲地進入路調査区 S03（以下 S03 とする）は、東区まで広がっていたと考えられるが SD01 により破壊され、東区においても S03 に対応する遺構は認められないため、遺構の詳細は不明である。SI03 は、分譲地進入路部調査区側へプランが広がっていたと思われるが、こちらに対応する遺構は認められない。このことから S03 が SI03 に先行する遺構と考えられ、SI01 → SI03 → S03 の新旧関係が成立する。溝に関しても SD01 は、S04 に続き、さらに溝は南下することが明らかになった。このことから、少なくとも今回の調査区とその周辺において弥生時代後期と古代に関して遺跡の連続性が認められたといえる。弥生時代後期の竪穴住居について（第 49 図）

高岡原遺跡は、圧倒的に弥生時代後期の竪穴住居が多く弥生時代後期集落遺跡としての印象が強い。竪穴住居は、第 49 図①の線で囲まれた範囲に集中しているがこれは、高岡原遺跡において西端に当たり、今回の調査区もここに含まれている。今回の調



第 48 図 高岡原遺跡遺構配置図（過去調査分との合成）



第 49 図 高岡原遺跡弥生時代後期竪穴住居検出分布図
 (『玉名市内遺跡調査報告書Ⅴ』高岡原遺跡 平成17年度の調査から抜粋、一部改変)

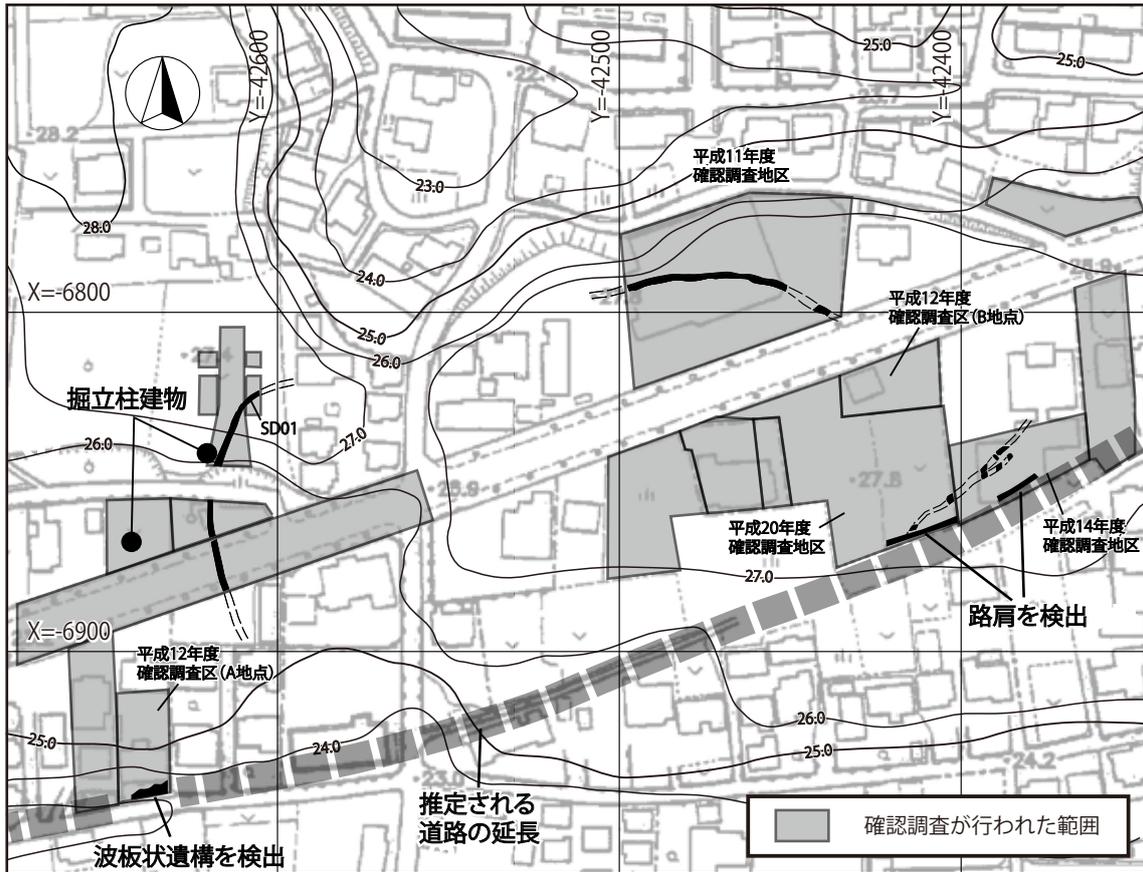
査で SI04 や SI05 が検出されたことで S02 や S03 とともに弥生時代後期の居住域が、現在の範囲からさらに北側の台地上に広がる様子を想定できる。現状では標高約 23m ～ 27m 付近の範囲で竪穴住居の検出が顕著であり、これを踏まえると第 49 図②線の範囲を中心に竪穴住居が展開する状況が考えられ、今後この範囲で調査を実施する際は、注意が必要であろう。また高岡原遺跡北側には標高が 28m を超えるが十分な広さを持つ平坦面があり、高岡原遺跡における弥生時代後期の居住域がさらに拡大する可能性も考えられる。

高岡原遺跡は、境川が流れる谷底低地に面した台地上に位置するが、これは、より生産活動に適した低地を求めた結果と考えられる。弥生時代後期以前は、鳥居原遺跡で弥生時代中期の竪穴住居跡が、糠峯西畑遺跡では弥生時代中期の甕棺墓、溝などが検出されており、また玉名台地北東縁に位置する松尾原遺跡では、弥生時代中期の甕棺墓が 12 基検出される。これらの遺跡は谷尻で湧水がみられる小谷をもつ台地上に位置するという特徴がある。弥生時代中期から後期になり、本格的な耕作が開始されると

耕地面積の拡大に適した河川周辺の低地近辺の台地を選択した可能性が高い。山田松尾平遺跡（第 49 図 084）や境川左岸の台地上に立地する築地館跡、玉名台地東端の岩崎城跡（岩崎原遺跡）で検出した弥生時代後期の竪穴住居などもこれと同様であろう。東南大門遺跡（第 49 図 162）は、弥生時代中期から後期の遺跡であるが、耕作に適した低地が近くに存在するため、そのまま継続し生活したか、再度この場所を選択したと考えることができよう。

古代の遺構について

古代の溝である SD01 と同規模の遺構は過去の調査でいくつか検出している。特に平成 11 年度、平成 17 年度、平成 29 年度の調査において検出された溝は SD01 と一連の溝と考えられ、断面形状が逆台形で幅約 1 ～ 1.5 m、深さ 0.5m ～ 1m の溝で、それぞれを配置すると緩く弧を描く様なプランになる。また平成 14 年度と平成 20 年度の確認調査では断続的ではあるが溝状の遺構が検出され、古代道の一部と思われる路肩も検出された。平成 12 年度の確認調査区 (A 地点) では波板状遺構が検出され、現道の一部が古代道と関連がある可能性が指摘され



第50図 高岡原遺跡古代遺構検出状況図

た。路肩が検出された平成14年度、平成20年度確認調査のすぐそばには幅約6m程の細長い地割も残っており、これが古代の伝路もしくは駅路の痕跡であるとの指摘があるため、これらの道路関連遺構も伝路や駅路と無関係ではないだろう。道路関連遺構に関してはその延長上に存在する中世道（第39図550）に続き、玉名郡倉跡まで行き着けるため、この中世道も古代道の一部であったと考えることができる。また、この中世道を含めた古代道は、玉名郡家跡や立願寺廃寺と大湊（玉名駅周辺）を結ぶ官道（第39図543の官道跡を含む）と交差することにもなり玉名台地における主要古代施設を結ぶ交通網が構築された状況が想定される。

SD01とS04は、弧を描きながら標高約26～27m付近の地点に伸びている。平成11年度確認調査地点において検出された溝を含めたこれらの遺構は、遺構の時期や規模などで類似点がみられるため一連の溝であり、SD01を含む溝群は検出状況から周溝を連想させる。しかし、平成11年度確認調査地点から築地立願寺線を挟んで南隣にあたる平成12年度確認調査地区（B地点）では同様の溝は

認められず、溝の行き先は不明となっている。平成14年度調査地点でも溝を検出したがこちらの溝は何度か掘り直された状況が土層観察により判明しており、平面プランも細長い土坑状のものが連続し、SD01などと様子が異なる。また平成20年度確認調査区では古代道路に向かって溝状遺構が伸びるため、これらの溝は古代道に付随する遺構の可能性がある、これをSD01など同様の溝とするには検討の余地がある。SD01を含む溝群が周溝となる場合は、周溝に伴う遺構の存在も重要となる。SD01付近では過去の確認調査において掘立柱建物が2棟検出したのみで、これらの掘立柱建物が溝西側（周溝の外側）に位置するため、現状では溝に関連するとは考えにくい。また、平成11年度実施の確認調査では溝南側（周溝の内側）でピットを複数検出したが建物を構成するに至らず、溝を伴った遺跡像は認められない。そのため築地立願寺線よりも北側で検出された溝は排水溝などの周溝以外の性格も想定しなければならないだろう。しかしながら平成11年度の確認調査では瓦片や風字碇の破片が溝内で出土し、これらの遺物が寺院や官衙関連施設の存在をう

かがわせるものであるため、古代道と推定される遺構の存在も含め、高岡原遺跡にも溝を伴う何らかの古代施設が存在した可能性は十分に考えられる。

参考文献

『玉名市史 通史篇 上巻』2005 玉名市

『岱明町史』2005 岱明町

門岡 久『岱明町地方史』1969 岱明町役場

宮崎敬士 2013 『築地館跡』

熊本県文化財調査報告 第283集

亀田 学 2014 『山田松尾平遺跡』

熊本県文化財調査報告 第304集

以上 熊本県教育委員会

竹田宏司 2002 『玉名市内遺跡調査報告書Ⅰ』

玉名市文化財調査報告 第11集

末永 崇ほか 2003 『岩崎城跡』

玉名市文化財調査報告 第12集

末永 崇ほか 2004 『玉名市内遺跡調査報告Ⅱ』

玉名市文化財調査報告 第13集

田中康雄 2008 『玉名市内遺跡調査報告書Ⅲ』

玉名市文化財調査報告 第17集

藪父雅史 2009 『玉名市遺跡調査報告書Ⅴ』

玉名市文化財調査報告 第18集

中村安宏ほか 2009 『玉名市内遺跡調査報告書Ⅵ』

玉名市文化財調査報告 第21集

古森政次 2017 『高岡原遺跡』

玉名市文化財調査報告 第35集

田中康雄ほか 2017 『塚原遺跡Ⅰ』

玉名市文化財調査報告 第36集

田中康雄ほか 2018 『塚原遺跡Ⅱ』

玉名市文化財調査報告 第40集

藪父雅史ほか 2019 『玉名市内遺跡調査報告書Ⅺ』

玉名市文化財調査報告 第41集

田熊秀幸ほか 2019 『高岡原遺跡Ⅱ』

玉名市文化財調査報告 第43集

藪父雅史ほか 2020 『玉名市内遺跡調査報告書Ⅻ』

玉名市文化財調査報告 第46集

以上 玉名市教育委員会



写真 26 東区完掘状況（南から）



写真 27 SI01～03 完掘状況（東から）



写真 28 SI02 遺物出土状況（南西から）



写真 29 SD01 完掘状況（北東から）



写真 30 西区完掘状況（北から）



写真 31 西区完掘状況（南から）



写真 32 SI04 完掘状況（北西から）



写真 33 SI04 完掘状況（南から）



写真 34 SI04 西側突出部完掘状況（東から）



写真 35 SI04 焼土検出状況（東から）



写真 36 SI05 完掘状況（北東から）



写真 37 SK01 完掘状況（北から）



写真 38 SK02 完掘状況（南西から）



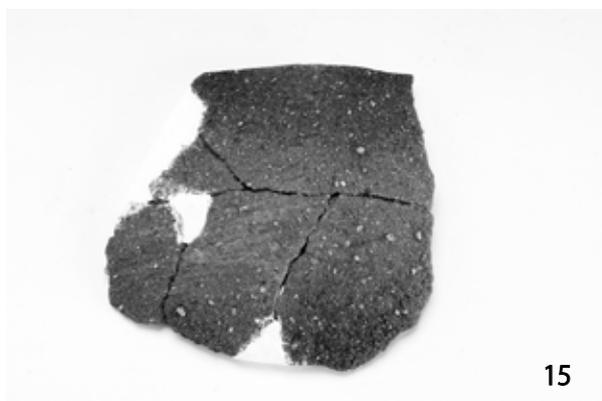
写真 39 SX01 完掘状況（北東から）



13



14



15



16



17



18

写真 40 東区出土遺物 (13~18)



写真 41 東区出土遺物 (19~26)



写真 42 東区 (27~29)・西区 (30~34) 出土遺物

第3表 令和2年度出土遺物1

挿図番号	遺跡	遺構	層位	器種・種別	法量 (cm)			器面調整		色調		胎土	焼成	備考
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面			
1	高瀬藩邸跡	—	—	土師質国策炭	5.2 (長さ)	3.7 (幅)	3.2 (厚さ)	ナデ	ナデ	にぶい橙 (7.5R7/4)	浅黄橙 (10YR8/3)	緻密で混入物なし。	良	「ニッケータン」の刻印あり。全体に穿孔があり。
2	高瀬藩邸跡	—	—	磁器鉢 体部～底部	—	4.1 (高台径)	(3.8)	総付け後 施釉	総付け後 施釉	灰白 (7.5Y7/1)	灰白 (7.5Y7/1)	白色の素地で混入物なし。	良好	
3	玉名平野遺跡群	—	—	弥生土器鉢 口縁部～体部	(13.2)	—	(9.2)	ヨコナデ ハケメ調整	ヨコナデ ハケメ調整	灰白 (2.5Y8/1)	灰白 (2.5Y8/1)	長石粒多く含む。	良好	
4	玉名平野遺跡群	—	中層	弥生土器鉢 口縁部～底部	(13.8)	—	11.1	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ	灰白 (10YR8/1)	灰白 (10YR8/1)	緻密な砂粒、角閃石、雲母片を含む。	良	385番地で出土
5	玉名平野遺跡群	—	—	土師器壺 口縁部～体部	(18.4)	—	(11.8)	ハケメ・ナデ	ハケメ・ナデ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR7/6)	長石、角閃石、雲母片含む。	良	385番地 遺構内から出土
6	玉名平野遺跡群	—	中層	弥生土器 脚付鉢胴部	—	—	(7.8)	ハケメ後ナデ	ハケメ後ナデ	赤褐 (5YR4/6)	灰白 (10YR8/1)	2mm以下の石英ほか長石、雲母片含む。	良	1557 - 1番地で出土
7	玉名平野遺跡群	—	—	弥生土器 高杯部	(14.0)	—	(5.3)	ナデ	ナデ	橙 (7.5YR6/6)	にぶい橙 (7.5YR6/3)	1mm以下の石英、雲母片含む。	良	385番地で出土
8	玉名平野遺跡群	—	中層	弥生土器 高杯胴部	—	—	(8.1)	クスリ後 ハケメ	クスリ後 ハケメ	にぶい橙 (5YR7/4)	にぶい橙 (5YR7/4)	長石を少量含む。	良	385番地で出土
9	玉名平野遺跡群	—	—	白磁碗	—	4.2	(2.0)	体部施釉 底部無釉	体部施釉 見込部施釉	灰白 (N 8/)	灰白 (N 8/)	灰白色の密な土。黒色粒を含む。	良好	1465 - 1番地で出土
10	玉名平野遺跡群	—	中層	陶製土管	14.9 (ソケット径)	11.2 (円筒径)	63.1	ナデ	ソケット部 楕目、ナデ	褐 (7.5R3/4)	褐 (7.5R3/4)	3mm大の石英をまばらに含む。	良	
11	玉名平野遺跡群	—	中層	陶製土管	15.1 (ソケット径)	11.0 (円筒径)	63.0	ナデ	ソケット部 楕目、ナデ	褐 (7.5R3/4)	褐 (7.5R3/4)	中粒砂をわずかに含む。	良	
12	玉名平野遺跡群	—	中層	陶製水聞土管	15.5 (ソケット径)	13.0 (円筒径)	33.5	ナデ	ソケット部 楕目、ナデ	褐 (7.5R3/4)	褐 (7.5R3/4)	混入物なし	良	
13	高岡原遺跡東区	S11	埋土内一括	弥生土器 蓋底部	—	—	(4.3)	ハケメ後ナデ	ナデ	明黄褐 (10YR7/6)	明黄褐 (10YR7/6)	3mm以下の石英、長石、雲母を含む。4mm以下の赤色粒子を多く含む。	良	
14	高岡原遺跡東区	S12	埋土内	弥生土器 口縁部～底部	15.0	—	8.0	ナデ	ナデ	橙 (7.5YR6/8)	橙 (7.5YR6/8)	3mm以下の石英、長石、角閃石、雲母を含む。	良	
15	高岡原遺跡東区	S12	埋土内	弥生土器 鉢 口縁部～底部	(19.6)	—	(8.2)	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ	赤褐 (5YR4/6)	赤褐 (5YR4/6)	6mm以下の石英を多く含む。長石、雲母を含む。	良	
16	高岡原遺跡東区	S12	下層一括	弥生土器 甕胴部	—	12.0	(5.8)	ナデ・ハケメ	ナデ	橙 (7.5YR6/8)	明赤褐 (7.5YR5/8)	白色砂粒を多く含む。少量の雲母、角閃石を含む。	良	
17	高岡原遺跡東区	S12	埋土下層	弥生土器 甕胴部	—	10.0	(5.3)	ナデ	ナデ	明赤褐 (5YR 5/8)	明赤褐 (5YR 5/8)	2mm以下の石英、白色砂粒、黒色砂粒、雲母を含む。	良	
18	高岡原遺跡東区	S12	埋土下層一括	弥生土器 甕胴部	—	12.4	(7.6)	ナデ	ハケメ	黄褐 (7.5YR7/8)	橙 (7.5YR7/6)	白色砂粒、雲母を含む。	良	
19	高岡原遺跡東区	S12	埋土内一括	弥生土器 甕胴部	—	(10.9)	(6.6)	ナデ	ナデ	浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	3mm以下の石英ほか、白色砂粒、黒色砂粒、角閃石、雲母を含む。	良	
20	高岡原遺跡東区	—	埋土下層	弥生土器 甕胴部	—	13.0	(6.4)	ハケメ・ナデ	ナデ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR6/8)	長石・雲母を含む	良	

第4表 令和2年度出土遺物2

挿図番号	遺跡	遺構	層位	器種・種別	法量 (cm)		器面調整		色調		胎土	焼成	備考
					口径	底径	器高	外面	内面	外面			
21	高岡原遺跡東区	S12	埋土内	弥生土器 壺口縁部	—	(3.6)	ナデ・ハケメ	ナデ	浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/4)	少量の微細な砂粒、雲母を含む。	良	
22	高岡原遺跡東区	S12	下層	弥生土器 甕口縁部	—	(10.2)	タタキ ハケメ 刺突文	ハケメ・ナデ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR6/6)	長石、雲母を含む。	良	
23	高岡原遺跡東区	S12	埋土下層	弥生土器 高杯 口縁部～杯部	—	(4.7)	ナデ	ナデ	明黄褐 (7.5YR5/6)	明黄褐 (7.5YR5/8)	2mm以下の長石、微細な砂粒を多く含む。	良	
24	高岡原遺跡東区	S12	埋土下層	弥生土器 高杯 高杯部	—	(3.7)	ナデ	ナデ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR7/6)	3mm以下の石英ほか長石、角閃石、雲母を含む。	良	
25	高岡原遺跡東区	S12	埋土内一括	弥生土器 高杯 高杯脚部	—	(8.6)	ナデ	しぼり真	黄橙 (7.5YR7/8)	黄橙 (7.5YR8/8)	1mm以下の石英、長石、少量の雲母を含む。	良	
26	高岡原遺跡東区	S12	下層	弥生土器 器台 脚部～底部	10.4	(12.7)	タタキ後ナデ	しぼり真	黄橙 (10YR7/8)	明黄橙 (10YR6/8)	2mm以上の長石、白色砂粒、雲母を多く含む。	良	
27	高岡原遺跡東区	S12	埋土下層	弥生土器 器台 脚部～底部	—	(9.8)	タタキ後ナデ	ナデ	橙 (7.5YR6/8)	明赤褐 (5YR5/8)	長石、雲母を含む。	良	
28	高岡原遺跡東区	SD1	埋土内	瓦器 底部～底部	—	(4.3)	指頭 ミナギキ ナデ後ケズリ	ナデ	褐灰 (7.5YR4/1)	灰白 (7.5YR8/1)	角閃石、雲母を含む。	良	
29	高岡原遺跡東区	S12	埋土下層	台石	16.0 (長さ)	9.6 (幅)	敵打痕あり	敵打痕あり	明赤褐 (5YR5/6)	明赤褐 (5YR5/6)	—	—	安山岩製。裾脚のた みから全体的に赤色を 帯びる。
30	高岡原遺跡西区	S14	埋土北側	弥生土器 ミニチュア土器 鉢口縁～底部	4.4	(6.4cm)	指頭 ナデ	指頭 ナデ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	微細な白色砂粒、黒色砂粒、角閃石、雲母を含む。	良	
31	高岡原遺跡西区	S12	埋土内一括	弥生土器 鉢 脚部	—	(2.2)	ナデ	ナデ	にふい、黄橙 (10YR7/4)	にふい、黄橙 (10YR7/4)	長石粒、雲母片少量含む。	良	
32	高岡原遺跡西区	S14	床直上	弥生土器 甕 脚部	—	(4.3)	ナデ	ナデ	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	3mm以下の石英ほか白色砂粒、黒色砂粒、角閃石、雲母を含む。	良	
33	高岡原遺跡西区	S12	埋土内	弥生土器 鉢 口縁～底部	—	8.7cm	ハケメ後ナデ	ナデ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	3mm以下の石英ほか長石、角閃石、雲母を含む。	良	
34	高岡原遺跡西区	S12	埋土内	弥生土器 鉢 口縁～底部	—	(21.2cm)	ハケメ後ナデ	ナデ	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	3mm以下の石英ほか長石、角閃石、雲母を含む。	良	
35	高岡原遺跡西区	S12	埋土内	弥生土器 甕 底部	—	4.8cm	ハケメ後ナデ	ナデ	橙 (7.5YR7/6)	黄橙 (7.5YR8/6)	2mm以下の石英ほか白色砂粒、黒色砂粒、角閃石、雲母を含む。	良	

報告書抄録

ふりがな	たまなしないいせきちょうさほうこくしょ							
書名	玉名市内遺跡調査報告書 14							
副書名	令和2年度の調査							
シリーズ名	玉名市文化財調査報告							
シリーズ番号	第51集							
編著者名	宇田 員将 中村安宏 壺父雅史							
編集機関	玉名市教育委員会							
所在地	〒 865-8501 熊本県玉名市岩崎 163							
発行年月日	2021年3月18日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "		m ²	
試掘・確認調査								
高瀬藩邸跡 <small>たかせはんていあし</small>	玉名市岩崎	43206		32° 55' 51"	130° 33' 12"	2020年4月 ～		個人住宅
繁根木遺跡群 <small>はねぎいせきぐん</small>	玉名市繁根木	43206		32° 55' 40"	130° 33' 33"			調査依頼
吉丸前遺跡 <small>よしまるまえいせき</small>	玉名市寺田	43206		32° 55' 26"	130° 35' 02"	2021年3月		道路
来顕寺 <small>らいけんじ</small>	玉名市青野	43206		32° 54' 36"	130° 35' 38"			納骨堂
岩崎原遺跡 <small>いわさきはらいせき</small>	玉名市立願寺	43206		32° 56' 04"	130° 33' 14"	2021年3月		個人住宅
玉名平野遺跡群 (A地点) <small>たまなしへいやいせきぐん</small>	玉名市玉名	43206		32° 56' 45"	130° 34' 38"			店舗
高岡原遺跡 <small>たかおかほらいせき</small>	玉名市山田	43206		32° 56' 15"	130° 32' 39"	2020年9月10日 ～10月9日	69.85	個人住宅
玉名平野遺跡群 (B地点) <small>たまなしへいやいせきぐん</small>	玉名市玉名	43206		32° 56' 29"	130° 34' 12"			調査依頼
築地館跡 <small>ついじやかたあし</small>	玉名市築地	43206		32° 56' 08"	130° 32' 00"	2020年10月21日 ～10月31日	78.00	個人住宅
玉名平野遺跡群 (C地点) <small>たまなしへいやいせきぐん</small>	玉名市玉名	43206		32° 56' 47"	130° 34' 22"			店舗
発掘調査								
高岡原遺跡 東区 <small>たかおかほらいせき</small>	玉名市山田	43206		32° 56' 15"	130° 32' 39"	2020年10月21日 ～10月31日	78.00	個人住宅
高岡原遺跡 西区 <small>たかおかほらいせき</small>	玉名市山田	43206		32° 56' 15"	130° 32' 39"			個人住宅
主な遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
高瀬藩邸跡	官衙	近世・近代		溝状遺構・ピット		磁器・素焼き陶器		
繁根木遺跡群	包蔵地	古墳時代・中世・近世・近代		溝状遺構		須恵器・瓦・ガラス製品		
玉名平野遺跡群 (B地点)	生産	弥生時代～古墳時代		井戸		弥生土器		
高岡原遺跡	包蔵地	弥生時代		住居跡・土坑・ピット・溝		弥生土器		

玉名市文化財調査報告 第51集

玉名市内遺跡調査報告書 14

— 令和2年度の調査 —

令和4年2月22日印刷

令和4年3月18日発行

編集発行

玉名市教育委員会

〒865-8501 熊本県玉名市岩崎 163

TEL 0968-75-1136・FAX 0968-75-1138

印刷

有限会社 玉名民報印刷

〒865-0015 熊本県玉名市亀甲 261

TEL 0968-72-2535・FAX 0968-72-4648